

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 261013 |
| プロジェクト番号 | S1511026 |

研究進捗状況報告書の概要

1 研究プロジェクト

| | | | |
|-----------|-------------------|-----|-------|
| 学校法人名 | 学校法人立命館 | 大学名 | 立命館大学 |
| 研究プロジェクト名 | 日本文化資源のグローバルアクション | | |
| 研究観点 | 研究拠点を形成する研究 | | |

2 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

本研究は、これまで本学アート・リサーチセンター (ARC) が行ってきた日本文化を対象とする文理融合型研究や研究環境整備とは異なり、文化資源を活用した地域貢献、国際日本文化理解への貢献など、社会貢献をどのように進めていくかという、新たな課題の解決を目的とする研究である。ARC は、立命館大学改革構想に基づいた全学的な支援の下、戦略的な拠点化を展開し、その結果、文科省 21 世紀 COE プログラム拠点、グローバル COE プログラム拠点、共同利用・共同研究拠点到採択され、本学全体の研究・大学院教育の高度化に貢献してきた。

これまで展開してきた日本文化研究の更なる段階として、「文化」自体が自立して、新たな生活の豊かさを、場合によっては経済的な豊かさをも生んでいく必要がある。そのため、本研究では、ARC が文理融合型・デジタル型で蓄積してきたデジタル研究資源を活用して、どのように社会に貢献し、新しい文化活動の循環を作っていくかを実践的に研究し、文化研究による社会貢献の実例を具体的に提案していく。

3 研究プロジェクトの進捗及び成果の概要

本研究では、①デジタル文化資源活用による海外日本研究者の育成とあらたな研究環境の提案、②伝統工芸がもつ近代化遺産の活用と総合的研究、③デジタル・アーカイブ公開における利便性の向上、の 3 テーマを設定している。

テーマ①では、欧州を中心にデジタル・アーカイブ事業を継続的に展開し、クラウド型でサーバ・データベースを提供することで海外連携機関を拡大した。これにより、国際連携型ポータルデータベースの仕組みが完成したと同時に、現地の若手人材への ARC のデジタル技術移転が進んだことにより、国際貢献を果たした。さらに、プロモートや研究交流イベントを開催し、国際連携をアジア地域に拡大した。これらにより、データベース群を充実させ、それらのデジタルコンテンツを有機的に連携させる教育用 WEB サイトを開発した。これらの事業の中軸を担う NPO 法人を設立し、事業の自立化を図り、社会貢献を果たしつつある。

テーマ②では、京都に根差す多様な資料の収集およびデジタル・アーカイブを実施し、データベース構築を着実に進め、その活用についても具体的な実践活動を進めた。この活動により、新たな資料の掘り起こしや提供も進み、地域貢献を果たした。また、ARC における日本文化資源の研究成果を仮想空間内において展示し、その環境整備や展示手法についての知見を継続的に蓄積している。

テーマ③では、1) 非専門家でも容易に使用できる情報検索と推薦する、2) 予期していなかった価値ある結果を提示する、3) オープンデータ化と多言語情報アクセスを実現する、4) エンターテインメント性のある体験を提供する4つの機能を実現するために研究開発を行った。これらの機能を既存の ARC システムに導入し、システムの利便性の向上を図り、社会貢献を果たしている。

当初目的に照らし、以上の国際・地域・社会貢献の状況から、順調に進捗していると判断できる。

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 261013 |
| プロジェクト番号 | S1511026 |

**平成 27 年度選定「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究進捗状況報告書**

1 学校法人名 学校法人 立命館 2 大学名 立命館大学

3 研究組織名 立命館大学 アート・リサーチセンター

4 プロジェクト所在地 京都府京都市北区等持院北町 56-1
立命館大学衣笠キャンパス アート・リサーチセンター

5 研究プロジェクト名 日本文化資源のグローバルアクション

6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

| 研究代表者名 | 所属部局名 | 職名 |
|--------|----------|----|
| 赤間 亮 | 立命館大学文学部 | 教授 |

8 プロジェクト参加研究者数 13 名

9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

| 研究者名 | 所属・職名 | プロジェクトでの研究課題 | プロジェクトでの役割 |
|-------|--------------|------------------------------------|--|
| 赤間 亮 | 文学部・教授 | デジタル・アーカイブ継承事例の蓄積とノウハウの開発 | プロジェクトの統括的推進 |
| 鈴木 桂子 | 衣笠総合研究機構・教授 | 海外におけるデジタル・アーカイブ継承事例研究と国内事例への還元 | 海外研究機関との連携とデジタル・アーカイブ活用推進 |
| 金子 貴昭 | 衣笠総合研究機構・准教授 | 古典籍を中心とする日本文化資料のデジタル・アーカイブ手法の推進と普及 | デジタル・アーカイブの効果的な蓄積と活用推進 |
| 木立 雅朗 | 文学部・教授 | データベースの構築・展開と活用 | テーマ②の統括と友禅図案を中心としたデータベースの構築・展開と、産学連携によるデータベースの活用 |
| 矢野 桂司 | 文学部・教授 | GIS データベースの構築・展開 | 京都における GIS データベースの構築と創造的活用 |
| 細井 浩一 | 映像学部・教授 | 3D 仮想空間を活用した展示型アーカイブ | 仮想空間における京都工芸品展示の実現 |
| 田中 聡 | 文学部・教授 | 京都におけるデータベースの意義 | 人文学から見たデータベースの構築の意義と活用に関する調査研究 |

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 261013 |
| プロジェクト番号 | S1511026 |

| | | | |
|----------------|-----------|-------------------------------|-------------------------------|
| THAWONMAS Ruck | 情報理工学部・教授 | 情報推薦・ユーザインタラクションの基礎・応用 | アーカイブ公開における利便性の向上とテーマ③の統括 |
| 前田 亮 | 情報理工学部・教授 | 人文系データベースにおける関連データ間の自動リンク生成 | 日本文化資源の共有化および有効活用 |
| 島川 博光 | 情報理工学部・教授 | 閲覧者の興味分野に合った複数の文化品からなるコンテンツ検索 | 日本文化を国際舞台に紹介するさいのデジタル資源の活用と展開 |
| 川越 恭二 | 情報理工学部・教授 | マルチメディア&クロスメディアデータベースの検索と推薦技術 | 左記の成果によるアーカイブ有効活用の向上 |
| (共同研究機関等) | | | |
| | | | |

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

| プロジェクト外での研究課題 | 所属・職名 | 研究者氏名 | プロジェクトでの役割 |
|---------------|-------|-------|------------|
| | | | |

(変更の時期:平成 28 年 4 月 1 日)



新

| 変更前の所属・職名 | 変更(就任)後の所属・職名 | 研究者氏名 | プロジェクトでの役割 |
|-----------|---------------|-------|---------------------------|
| | 文学部・教授 | 西林 孝浩 | 海外研究機関との連携とデジタル・アーカイブ活用推進 |
| | 文学部・准教授 | 三須 祐介 | 海外研究機関との連携とデジタル・アーカイブ活用推進 |

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 261013 |
| プロジェクト番号 | S1511026 |

11 研究進捗状況(※ 5枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

文理融合、研究エンターテインメント、デジタル・ヒューマニティーズと、デジタル時代に呼応してユニークに発展してきた本学の文化研究は、現在、海外からも高い評価を得ている。しかし、これらの研究は、個々の研究グループが個別の興味によって進めてきたもので、多くの研究発表や論文を残すことができたが、どれだけ実社会、実生活に実りを与えたのかという疑問を呈さざるを得ない。本研究は、これまで本学が行ってきた文理融合型研究やデジタル人文学の研究とは異なり、文化資源を活用した地域との連携と産業のイノベーション、国際日本文化理解への貢献など、文化研究の「社会貢献」をどのように進めていくかという、新たな課題の解決を目的とする研究である。

人間は、政治・経済活動の中で生活が保障され、そこに余力が生れることにより「文化」活動が活発化していく。通常パトロンが、余力としての財力によってスポンサーとなり、場合によっては、直接的に研究活動に貢献する。これは「行止り」型研究活動であって社会還元は極めて小さい。しかし、グローバル時代においては、「文化」の研究活動自体が自立して、場合によっては経済的な豊かさをも生んでいく必要があるし、実際、それが可能となってきた。人文学研究の各分野でもようやく社会に窓口を開こうとする試みが始まっているが、本研究では、本学アート・リサーチセンターが蓄積してきたデジタル研究資源を活用して、どのように社会に貢献し新しい文化活動の循環を作っていくのかを、具体的なプロジェクトのなかで実践していくことで「社会貢献」の軌範を提示することができる。

特色は、①デジタル・アーカイブ技術の裏付けがあり、情報発信技術の開発・応用が可能となるメンバー構成である。②京都という文化の集積地において、デジタル技術との連携を実現し、伝統文化の現代生活への導入を容易にし、地域産業のイノベーションを実現できる(地域貢献)。③欧米を中心とする日本文化資源を所蔵する博物館や美術館などの機関、個人からのコレクションをデジタル技術で連携させ、国境単位、地域単位で断絶していた文化資源情報を統一的に活用することで、海外研究者らのあらたな研究活動のフィールドを醸成できる(国際貢献)。

(2) 研究組織

本プロジェクトは、次の3つのサブテーマによって成り立ち、組織全体を①に所属する赤間が統括する。

- ①デジタル文化資源活用による海外日本研究者の育成とあらたな研究環境の提案(5名:リーダー・赤間亮)
- ②伝統工芸がもつ近代化遺産の活用と総合的研究(4名:リーダー・木立雅朗)
- ③デジタル・アーカイブ公開における利便性の向上(4名:リーダー・THAWONMAS Ruck)

テーマ①では、海外の日本文化関係組織や研究者との連携による日本文化理解の推進(国際貢献)に取り組む(赤間・鈴木・金子・西林・三須)。一方で、テーマ②は、京都を中心とする文化産業や文化研究との地域連携(地域貢献)に取り組む(木立・矢野・細井・田中)。テーマ③では、既存のARCデジタル資源や①②によってより拡大するデジタル環境の内、単なる蓄積ではなく、広範な活用・応用を実現する情報技術の導入・開発を行う(THAWONMAS Ruck・前田・島川・川越)。

この3つのテーマを連携させ、それぞれのグループからの代表者による統括組織「社会貢献開発」会議により、各テーマを有機的に連携させる。なお、研究の進捗を確認し助言を受けるため外部審査委員会を設置し、毎年の年度末に実施する公開カンファレンスを経て、審査委員会を開催する。

研究にあたっては、大学院生(2015年度14名、2016年度24名、2017年度12名)、PD(2015年度3名、2016年度5名、2017年度3名)、RA(2015年度2名、2016年度3名、2017年度2名)が参加し、若手研究者の人材育成にも活用している。なお、研究支援体制として、研究部リサーチオフィス内に本プロジェクトの事務局を置き、事務実務を担い、ARCにも資料閲覧要請に対応できる事務局員を配している。

(3) 研究施設・設備等

【研究施設】

主なプロジェクト活動には、本学衣笠キャンパス アート・リサーチセンター(1257.60 m²)を教員、院生を含む若手研究者約40名で、同キャンパス修学館オープンリサーチルーム(258 m²)を約15名で使用している。ARCにはアーカイブ室、収蔵庫、資料修復室、プロジェクト室、展覧室を備えている。

【研究設備】

ARCのアーカイブ室では、本学所蔵資料の他、国内外でデジタル化された研究資源のデジタル処理が高速にできるデジタルアーカイブシステム一式、画像出力装置一式を備え、それぞれ週に20時間から40時間程度利用している。

【本事業によって購入した研究設備】

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 261013 |
| プロジェクト番号 | S1511026 |

当初の設備整備計画に基づき、平成 27 年度は、[絵入百人一首]及び[舞台意匠控帳]を購入した。[絵入百人一首]は国内外に多くの所蔵を確認できる奈良絵本に類する。[舞台意匠控帳]は、稀少な歌舞伎舞台の大道具に関する幕内資料である。いずれも国内外共同研究にふさわしい研究素材として整備・デジタル化し、「ARC 古典籍ポータルデータベース」を通じて公開している。

平成 28 年度は、[戦前・浮世絵及び風俗関連雑誌書籍]及び[古裂貼交帖]を購入した。[戦前・浮世絵及び風俗関連雑誌書籍]は、浮世絵・日本風俗研究が盛んな海外からの利用ニーズに応え、すでに「ARC 所蔵近代書籍(PDF) データベース」を通じて公開している。[古裂貼交帖]は、平成 29 年度に一部資料のデジタル化を行い、その意義について発表した(*学会発表 61)。その結果、裂の活用方法が京都独特で多様であったことが明らかにできた。染織品が使用される分野(お茶・絵画・陶芸・その他の工芸品製作)にとって、裂帖は貴重な財産であることが注目された。

平成 29 年度は、[風俗・芸術関係資料一式]を購入した。当該資料は、肉筆画・浮世絵版画等を中心とした風俗・芸術資料であり、ARC のデジタル・アーカイブの質・量を充実させる為に整備した。「ARC 浮世絵ポータルデータベース」を通じて平成 30 年度中に公開すべく、デジタル化・メタデータ作成に取り組んでいる。

(4)進捗状況・研究成果等 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

<現在までの進捗状況及び達成度>

以下に述べるように、各テーマとも国際貢献・地域貢献・社会貢献の観点から順調かつ積極的に研究を進めている。具体的な達成度については以下に記載する。

【テーマ①】

テーマ①においては、デジタル文化資源の国際・学際的共同研究の実現による「国際貢献」と「社会への応用的活用」を企図して研究を進めている。

1:平成 27～29 年度において、欧米を中心に諸機関におけるデジタル・アーカイブ事業を継続して実施した。その際、現地の若手研究者の参加を募り、ARC の技術やノウハウの国際移転を行った他、成果物としてのデジタル・アーカイブを格納するサーバやデータベースシステムを諸機関や研究プロジェクトにクラウド型で提供し(*URL2.3)、閉ざされた文化資源を国際的に開放かつ国際的共同研究に活用する体制を提供することによって、国際貢献を果たした。クラウド型については、平成 29 年度までに国内外の述べ 54 機関の参加を得るに至っている。また、欧米の大学の日本学コースや博物館と連携しながら、研究資源データベースを活用し、WEB 会議システムを使ったワークショップを実施している。

2:海外に関しては、この 3 年間のデジタル・アーカイブ実施や研究交流イベント開催(*シンポジウム 1.4.8.9)により、中国・韓国・台湾・インドネシアの研究機関との連携を構築し、デジタル・アーカイブ事業をアジア地域にまで拡大した。(*論文 14、図書 4、学会発表 10.11.12.13.18.33.34.35.36)また、中国では出土遺物、台湾では演劇資料、韓国では木版、インドネシアではバティックというように、分野の幅も充実した。これと並行し、北米地域の機関へのプロモートを行い(*学会発表 5.29.36)、平成 30 年度以降の活動基盤を構築した。

3:国内においては、デジタル・アーカイブ技術開発とノウハウの蓄積を継続しつつ、NPO 法人「デジタルアーカイブ研究所」を設立し、同法人がデジタル・アーカイブ事業の中核となることによって、文化研究活動の自立化の一事例として社会貢献の形を見出した。同法人は、ARC と文化庁との共同研究における中核的役割を果たし、あるいは他大学の文化資源の WEB 公開を促進する上での重要な役割を担い始めている。

【テーマ②】

テーマ②は、京都を中心とする文化産業と文化研究の融合を目指し、「京都らしい」地域連携と地域貢献を目指し、総合的研究を行った。

1:友禅図案のデジタル・アーカイブを進め、平成 29 年 3 月までに 3 分の 1 を残すのみとなった。データを積極的に活用する試みとして、新たに型紙を彫り直し、唐紙の製作に応用した。型紙関連資料については、付随資料である「型彫出控」のデジタル・アーカイブを終え、それによってデータ分析を開始した。また、高度経済成長期に作成した膨大な新聞切り抜き集のデジタル・アーカイブ化を進めている。(*論文 37、学会発表 75)

2:京都の各発掘現場で採集した粘土の焼成実験を進めている。

3:祇園祭の山鉦の1つである船鉦町において、平成 27 年に、大型京町家の長江家住宅が長江氏から(株)フージャースホールディングスに譲渡され、長江家住宅が所蔵する、所蔵品約千点が本学 ARC に寄贈された。また、長江家は、祇園祭船鉦の運営に古くから関わっており、多くの資料(古文書、写真、ビデオ)を所蔵しており、それらのデジタル・アーカイブを実施している。(*論文 59.62、図書 7.10.12、連携 7)

4:平成 27 年度は、仮想空間「ARC 日本文化資源仮想展示エリア」内において日本文化研究資源の社会

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 261013 |
| プロジェクト番号 | S1511026 |

化(ビジネスを含む社会的応用)の可能性として、服飾あるいは服飾史を研究教育するユーザ用の仮想レクチャー環境およびレクチャー内容と相関する衣装へのアバターの簡易着替環境を設計、実装した。平成 28 年度は同仮想空間内において「立命館大学 ARC 所蔵名品展示館」を新規建築し(*論文 47.48、学会発表 76)、同展示館でのエキシビジョン第一弾として、ARC が所蔵する根付け(2点)の 3D スキャニングに関わる研究成果を活用し、根付けの 3D オブジェクトを制作、展示した。平成 29 年度は、最新の日本文化資源としてのデジタルゲームを対象とし、仮想展示エリアにおいてゲーム展示の基礎研究を目的としたトライアル空間「ゲーム展 TEN2」を建築し、過去の実際のゲーム関連展示の空間配置を再現することで、ゲームの仮想展示に関わる諸課題を双方向的に実験できる環境を整備した。

【テーマ③】

テーマ③ではデジタル・アーカイブ公開での利便性向上を目的とし、以下に示す機能を既に運用されている ARC のシステムに導入するために研究開発を行い、アーカイブの有効活用を促進し、国際貢献と地域貢献を図った。

- 機能1: 非専門家でも容易に使用できる情報検索と推薦
- 機能2: 予期していなかった価値ある結果の提示
- 機能3: オープンデータ化と多言語情報アクセスの実現
- 機能4: エンターテインメント性のある体験の提供

各機能の詳細については以下に述べる。

機能1: マルチメディアコンテンツの検索と偶発的推薦手法を融合した検索・推薦技術の研究開発を行った。具体的には、様々な情報推薦手法を適用した浮世絵推薦システムの試作と、偶発的情報推薦の基礎となる嗜好空間と既知空間による情報推薦方式の提案、コンテンツ空間上での連続的検索・推薦手法、利用者の行動を考慮した情報検索・推薦方式等の研究を行った。(*学会発表 109.113.123.128.133)

機能2: セレンディピティーに基づく予期していなかった価値ある検索結果をもたらす手法を開発し、京都の文化財や寺社仏閣を訪問するシチュエーションの実験により、閲覧者が訪問への欲求を満たすために、直近の欲求を満たす文化財を含み、かつ、潜在的欲求を満たすような文化財も目に入るような訪問ルート閲覧者に推薦する手法を開発した。(*論文 84.105、学会発表 120.145.164)

機能3: 異言語浮世絵データベース間における同一作品の同定を行う手法について研究を行った。近年自然言語処理の分野で注目されている単語の分散表現を用いることにより、異言語間での単語の類似度を計算し、これを用いて異言語の浮世絵データベースから同一作品を同定する手法を開発した。また、ARC 所蔵資料データベースのバイリンガル横断検索システムを構築し、本システムにおける作品名のローマ字表記の自動分ち書き手法を開発した。(*論文 80.82.100. 102.103. 104.120.123.124.126、図書 16、21 学会発表 115.116.136.150.158)

機能4: 既存の ARC システムの利用者層を拡大するために、ゲームプレイなどのエンターテインメント性のあるコンテンツを浮世絵などの既存のコンテンツと一緒に提示する方法を検討した。また、継ぎ目のないゲームプレイの自動生成を実現するために、モンテカルロ木探索や深層学習といった人工知能の手法を応用した。(*論文 72.73.74.76.89.93.95.117、学会発表 130.179)

<特に優れた研究成果>

【テーマ①】

研究資源の「ポータルデータベース」化によって、たとえば浮世絵で 50 万件以上、や古典籍で 20 万件以上の作品を検索できるなど、それぞれ世界最大の巨大なデータベース構築を実現するなど、各分野のデータベースが充実したことはもちろんであるが、日本文化理解の深化の為に、これらのデータベースや wiki システム、オンライン展示等のデジタルコンテンツをテーマごとに有機的に連携させることができる教育用 WEB サイト「バーチャル・インスティテュート」を開発し、実装(*URL4)した。

【テーマ②】

- 1: 友禅図案をはじめとする図案の公開、株式会社ロームの「ORIZURU プロジェクト」への図案提供。
- 3: 長江家住宅の所有者である(株)フージャースホールディングスと連携し、平成 27 年度以降、所蔵品データベースをもとに屏風祭を運営している。(*連携 1) また、平成 30 年 1 月に『祇園祭船鉾保存会設立 50 周年記念誌』を刊行した。(*図書 10、連携 7) また長江家住宅北棟の改修復原工事をに立ち合い、映像と復原の記録を作成した。
- 4: 日本文化資源の研究成果を仮想空間において展示するという実践事例が少ない中で、ARC における日本文化資源の研究成果の特徴と仮想空間の特性を結びつけたオリジナリティのある展示手法についての知見を継続的に蓄積している。

【テーマ③】

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 261013 |
| プロジェクト番号 | S1511026 |

いずれの機能においても、プロトタイプが開発され、それについての研究成果をまとめた査読付きジャーナル論文、査読付き国際会議論文が多数採択された。

<問題点とその克服方法>

【テーマ①】

平成31年1月に著作権法のデジタルコンテンツに関わる条文が改正・施行されるに伴い、改正が本プロジェクトの成果にどのような効果・影響を及ぼすかを見極め、事業展開に反映させる必要があり、平成30年度に専門家を招いて研究を進める。また、NPO 法人の運営は順調に進んでいるが、自立化にはさらなる工夫が必要であり、クラウドファンディングやコンテンツ販売等の方策について検討する。

【テーマ②】

1: 友禅図案や型紙等の染織資源は膨大であり、今後も増加すると想定される。活動を理解した方々からの資料提供の機会は増加したが、ここで収集できる資料には限界がある。京都の伝統工芸の貴重な財産なので、京都市とも協議を進めつつ、収集と活用の案を提示していく。

3: 現在、長江家住宅の継承に関しては、所有者、京都市とうまく連携しており、産官学地域連携による協働がうまく展開している。当面の課題は、これに関わる若手研究者や学生の確保である。

4: 本研究は3D 仮想空間における最も標準的な技術の集合であるサービス(Second Life)をベースとして各種の研究、実践を進めているが、その知見がどこまで他の仮想空間、今後の仮想空間に応用展開可能かについて現実的に検討する必要が生じている。この点については仮想空間サービスの現状についてのサーベイを研究課題に組み込む事から対応を進める。

【テーマ③】

機能1: コンテンツのキーワードには専門用語が多く、非専門家による検索キーワードに合致するコンテンツがきわめて少ないことがある。これらの問題を解決するため、デジタル・アーカイブへのアクセスログを使用する等の手法を実現することとした。

機能2: 仮想現実空間内に文化財や人物を登場させるには、大量のプログラミングが必要となる。この問題を克服するため、商用の仮想空間内の日本家屋や文化品などを購入した。

機能3: 異言語のデータベースから同一レコードを同定するためには、レコードのメタデータについて、異なる言語間での意味的な類似度を定義する必要がある。この問題を解決するため、単語の意味をベクトルで表現する単語分散表現の技術を導入した。

機能4: 人工知能の手法により自動的に生成されるゲームプレイの観戦者の観点での面白さや自然さを保証する必要がある。関連分野の既存研究の成果はプレイヤーを対象としているため、一部の改変を行ってから応用した。

<研究成果の副次的効果(実用化や特許の申請など研究成果の活用の見直しを含む。)>

【テーマ①】

上記のスキーム構築により、海外日本研究プロジェクト(Japanese Performing Arts Resource Center 等)の呼び込みに成功し、本プロジェクトが目指す海外日本研究者による日本文化理解の成果の日本に向けた発信を体現しつつある。

【テーマ②】

図案データベースの企業での活用や、デジタル化した長江家所蔵の写真やビデオは、京都の過去の記憶を語っていただくワークショップなど、地域のイベントに活用され、今後とも多様な活用方法が想定される。また、平成27年度の服飾仮想展示および展示の内容、趣旨と連動させた学習プログラムについては、上田安子服飾専門学校および株式会社毎日映画社との共同研究において実施し、服飾史を教育学習するための映像コンテンツを含むカリキュラム開発を進めた。

【テーマ③】

試作した各機能のプロトタイプは、今後、ARC のシステムの新しい機能として付加・提供することを計画している。また、私立大学戦略的基盤形成事業終了後のシステムの持続的な運用のために企業との共同研究を図る。

<今後の研究方針>

【テーマ①】

デジタル・アーカイブ事業の実施に際して、現在進めている各国の院生、若手研究者へのデジタル技術の教育を今後もさらに進め、WEB 会議システムを使った共同研究会等により、各国に日本文化デジタル資源の活用拠点・活用チームを形成すると同時に、国境を越えた各国大学・研究組織の連携を確立させる。

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 261013 |
| プロジェクト番号 | S1511026 |

【テーマ②】

1: 図案や型紙資料を京都の財産として保存し・活用できるよう、多様な仕組みの提案。多様な資料のデジタル・アーカイブを進めると共に、新たな活用方法の開発や、資料の発掘についても積極的に対取り組む。

2: 京都の土については、可能な限り開発や発掘で出土する土を活用し続け、多様な伝統工芸が活用できるよう、その歴史的な重要性を京都市や市民に訴えかけてゆきたい。

3: これまで蓄積された、デジタル・アーカイブなどを展示するスペースを、長江家住宅の一部に常設できるよう計画中である。そのための展示手法などを今後考えていく予定である。

4: 仮想空間をめぐる技術革新が加速化しており、XR 技術を代表とするパーソナル型 3D 環境の構築が普及し始めており、現在の本研究の環境も、これに対応していく必要性が生じている。XR 技術自体もまだ不確実であるが、現状の技術動向の範囲内で研究内容および成果構築方法のアップグレードを(XR 対応)を検討する。

【テーマ③】

機能1: ARC コンテンツを主要ターゲットとしてマルチメディアコンテンツの検索手法と推薦手法の融合を目指した情報推薦技術の研究開発を行う。

機能2: セレンディピティを引き起こすことを、仮想空間内で実現する方法を検討中である。

機能3: 異言語間のレコード同定技術の対象を浮世絵以外の ARC コンテンツに拡大し、さらにそのオープンデータ化および多言語化に取り組む。

機能4: 利用者に適しセレンディピティ性を持つゲームプレイを提示する手法、観戦者がゲームプレイの一部に影響を及ぼすことのできる仕組みを開発する。

<今後期待される研究成果>**【テーマ①】**

国際貢献の一環として、デジタル技術インストラクションサイトをWEB上で開始することにより、デジタル技術教育プログラムの確立を目指しており、デジタル化技術・ノウハウの国際移転をさらに進める。

【テーマ②】

染織関係や地域史に関わるデータベースは、京都の伝統工芸にとってはもちろん、「京都らしさ」「日本らしさ」を演出するためにも多様に活用できると考える。今後、京都の土がさらに認知されれば、土を媒体として多様な伝統工芸を繋ぎつつ、その文化的資源をも持続可能な形で提供できるだろう。建設工事や発掘調査に先立ち、土の提供を呼びかけ、町おこしの話題と資源を提供できれば、歴史的な自然資源として再生されるだろう。

平成 28 年度以降、船鉾以外の山鉾として、八幡山の懸装品や装飾品のデジタル・アーカイブを実施した。平成 30 年度秋には、京都文化博物館で、八幡山の企画展示があり、現物、デジタル・アーカイブの成果の展示を計画している。本事業で作製したデジタル・アーカイブの地域への貢献として位置付けている。

ARC で研究されている日本文化資源の特性や属性を、現実空間では困難な仕組みや表現において仮想展示することを通じて、研究成果の理解を促進するノウハウが蓄積されており、今後は、古代から現代までの日本文化資源を総合的、通史的に理解できるような学習環境を構築することが展望できる。

【テーマ③】

本研究の成果を用いて、年少者や外国人がより興味を示してくれるように、日本文化の特長を活かし、各機能を強化すると同時に新たな機能を開拓する。

<自己評価の実施結果及び対応状況>

各年度末に実施している成果報告会および「社会貢献開発」会議において、リーダーを中心に、本拠点の活動が国際・地域・社会貢献をなし得る内容・体制になっているか、評価・点検を実施している。1. 国際共同研究による日本文化研究や比較文化研究を見据えているか、2. 研究や社会に対して効果的な情報発信となっているか、3. 新たな工芸品や観光コンテンツを創出する視点が含まれているか、4. 成果が産学地を循環する還元となっているか、を重点点検ポイントとしており、議論を踏まえてテーマ間連携を強めている。

<外部（第三者）評価の実施結果及び対応状況>

ARC の外部評価委員会として、2 名の有識者を委員に委嘱している(小松和彦委員[国際日本文化研究センター長]、Henry Smith 委員[コロンビア大学名誉教授])。平成 28 年 12 月 1 日および 12 月 6 日に外部評価委員会を開催し、両委員から ARC の研究活動に関してヒヤリングを行い、本拠点の活動についても評価を受けた。平成 29 年 1 月、両委員から、外部評価に係る意見書の提出を受け、それをもとに、拠点の広報活動の充実を図るよう取り組んでいる。また、次回は平成 30 年 6 月の外部評価実施を予定している。

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 261013 |
| プロジェクト番号 | S1511026 |

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) デジタル・アーカイブ (2) 日本文化 (3) 地域連携
 (4) 国際連携 (5) セレンディピティ (6) 情報推薦
 (7) GIS (8) メタバース

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

【テーマ1】

- 1) 赤間亮:在外日本美術品のデジタル画像共有化をめぐる 絵本に注目して, 美術フォーラム 21(35号), pp.82-89(2017)
- 2) 赤間亮:「新日本古典籍総合データベース」のマルチリンガル化対応のための基礎研究, ふみ(9号) pp.4-5(2017)
- 3) 赤間亮:R・Keyes,P.Morse 編「北斎版画作品カタログレゾネ」Web 公開システムとシステム環境, アート・ドキュメンテーション学会秋季研究集会予稿集(10号), pp.24-25(2017)
- 4) 赤間亮:劇場の外の「風流」から歌舞伎を考える, 論究日本文学(107号), pp.17-25(2017)
- 5) Zhenao Wei, Lilang Xiong, Kazuki Mori, Tung Duc Nguyen, Tomohiro Harada, Ruck Thawonmas, Keiko Suzuki, Masaaki Kidachi: Deep Features for Image Classification and Image Similarity Perception, Proceedings of JADH Conference(2017 巻), pp.60-62(2017) 査読有
- 6) 鈴木桂子:染色デザインの世界の連環の研究—「アフリカン・プリント」、型紙を中心に, 第8回横幹連合コンファレンス(2017) 査読無
- 7) 金子貴昭:The Printing Blocks of Woodblock-printed Books(Freer Gallery of Art and Arthur M. Sackler Gallery Smithsonian Institution), The World of the Japanese Illustrated Book(2017)
- 8) 三須祐介:林懐民「逝者」論—「同志文学史」の可能性と不可能性をめぐって—, 「立命館法学」別冊『ことばとそのひろがり』—島津幸子教授追悼論文集—(6号), pp.603-626(2017)
- 9) 三須祐介:前衛としての台湾文学—1990年代文化論再考—国際シンポジウム参加記, 日本台湾学会ニューズレター(32号)pp.13-16(2017)
- 10) 三須祐介:新旧「同志」の相克と対話(書評:許維賢『從艷史到性史』), 東方(439号), pp.28-33(2017)
- 11) 赤間亮, エリス・ティニオス:北斎とその彫師, アート・リサーチ(16号)pp.39-45(2016)
- 12) 鈴木桂子, 齋藤進也:Development of a Support Tool for Categorizing Ukiyo-e's Pictorial Themes: A System to Deal with Visual Features and Similarities, Digital Humanities 2016: Conference Abstracts, pp.880-882(2016) 査読有
- 13) Tung Nguyen, Ruck Thawonmas, Keiko Suzuki, Masaaki Kidachi: Comparisons of Different Configurations for Image Colorization of Cultural Images Using a Pre-trained Convolutional Neural Network, JADH2016, pp.60-63(2016) 査読有
- 14) *鈴木桂子:「国際的な型紙研究の基盤構築と活用に向けて」, 『国際ワークショップ 学術資料としての『型紙』—資料の共有化と活用に向けて 報告書』pp.4-5(2016) 査読無
- 15) 金子貴昭:浮世絵研究における板木研究の課題, 醍醐書房、美術フォーラム 21(34巻), pp.65-71(2016)
- 16) 三須祐介:書評・藤野真子『上海の京劇—メディアと改革』, 現代中国(90号), pp.111-116(2016)
- 17) 赤間亮:立命館大学アート・リサーチセンターの古典籍デジタル化:ARC国際モデルについて, 情報の科学と技術(65号)pp.181-186(2015)
- 18) 鈴木桂子, 齋藤進也:Development of a Data-visualization Tool for Ukiyo-e Analysis: A Case Study of Otohime, JADH2015 Conference Booklet, pp.45-46(2015) 査読有
- 19) Chulapong Panichkriangkrai, Liang Li, Keiko Suzuki, Ryo Akama, Kozaburo Hachimura:Character Image Database of Woodblock-Printed Japanese Historical Book Images, 2015 International Conference on Culture and Computing, pp.202-203(2015) 査読有
- 20) Keiko Suzuki, Shinya Saito:A Data-Visualization Tool for Analyzing Ukiyo-e's Pictorial Themes, 2015

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 261013 |
| プロジェクト番号 | S1511026 |

International Conference on Culture and Computing, pp.213-214(2015) 査読有

- 21) 鈴木桂子:「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ」, 2015 年度 インドネシア日本研究学会紀要, pp.1-11 (2015)
- 22) 金子貴昭:二〇一五 東亜細亜木版国際学術会議「記録遺産与木板文化」「日本近世期の板木保存状況と板木デジタルアーカイブによる保存・活用」発表抄録, 温故叢誌(69号), pp.52-56(2015) 査読無

【テーマ2】

- 23) 木立雅朗:回転運動を利用した成形-ロクロと回転運動-, モノと技術の古代史 陶芸編, pp.245-270 (2017) 査読無
- 24) 木立雅朗, 岩城浩一: 京都の伝統工芸と戦争 その八 戦跡考古学の今後の課題は, 調査情報(537号) pp.40-45(2017) 査読無
- 25) 木立雅朗:海を越える窯業-須恵器から明治まで、近年の京都における民俗考古学的検討から-, 石川県埋蔵文化財情報(37号), pp.29-31(2017) 査読無
- 26) 木立雅朗: 京都の伝統工芸と戦争 その七 伝統工芸の現在-戦争をくぐり抜けてきた京都とその未来-, 調査情報(536号) pp.36-41(2017) 査読無
- 27) 河角直美, 矢野桂司, 山本峻平:二つの『京都市明細図』の概要とその GIS データベースの構築——京都市府立総合資料館所蔵本と長谷川家住宅所蔵本——, 地理学評論(90巻4号), pp.390-400(2017)
- 28) 矢野桂司:ハーバード大学の地理学と GIS の盛衰と展開, 理論地理学ノート(19巻) pp.55-70(2017)
- 29) Weite Li, Kenya Shigeta, Kyoko Hasegawa, Liang Li, Keiji Yano and Satoshi Tanaka :The International Archives of the Photogrammetry, Remote Sensing and Spatial Information Sciences(XLII-2/W7巻)(2017)
- 30) 山本峻平, 佐藤弘隆, 高橋彰, 河角直美, 井上学, 矢野桂司:デジタルアーカイブ写真の GIS 化の活用—「京都の鉄道・バス写真データベース」の構築—, 人文科学とコンピュータシンポジウム論文集(情報処理学会シンポジウムシリーズ(2017巻24号), pp.31-36(2017)
- 31) 上杉昌也, 矢野桂司:個人の交通行動と近隣環境に関するジオデモグラフィクス分析, GIS-理論と応用(25巻1号), pp.11-22(2017)
- 32) 上杉昌也, 樋野公宏, 矢野桂司:ジオデモグラフィクスによる社会地区類型を活用した窃盗犯の発生要因に関する小地域分析, E-journal GEO(13巻1号)(2017)
- 33) 上杉昌也, 矢野桂司:すまいの耐震化の普及・啓発におけるジオデモグラフィクスの活用:京都市を事例として, 京都歴史災害研究(39-50号), pp.39-50(2017)
- 34) 細井浩一, 井上明人, 福田一史:ゲーム所蔵館連携の可能性と意義, 『日本デジタルゲーム学会 2017 年次大会予稿集』pp.92-95(2017)
- 35) 田中聡:蓑島・井上両氏への応答, 歴史科学(228号), pp.55-58(2017)
- 36) 木立雅朗: 京都の伝統工芸と戦争 その六 京焼登り窯の現在、煙突と公害, 調査情報(535号) pp.34-39 (2016) 査読無
- 37) *木立雅朗: 京都の伝統工芸と戦争 その五 友禅に描かれた戦争 「韓国併合」と「爆弾三勇士」, 調査情報(534号) pp.28-33(2016) 査読無
- 38) 木立雅朗: 京都の伝統工芸と戦争 その四 京町家と「防空壕」—「逃げるな、火を消せ」—, 調査情報(533号) pp.40-45(2016) 査読無
- 39) 木立雅朗: 京都の伝統工芸と戦争 その三, 調査情報(532号), pp.8-14(2016) 査読無
- 40) 木立雅朗: 京都の伝統工芸と戦争 その二 信楽・川越・沖縄を結ぶ陶器製手榴弾と陶器製地雷, 調査情報(531号), pp.33-39(2016) 査読無
- 41) 木立雅朗: 京都の伝統工芸と戦争 その一 清水焼の陶器製手榴弾, 調査情報(530号), pp.2-7(2016)

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 261013 |
| プロジェクト番号 | S1511026 |

査読無

- 42) 木立雅朗: 京都の土と窯-発掘現場からみた伝統工芸と京都の土と石の関係, 立命館文学、河角龍典教授追悼記念論集, pp.40-52(2016) 査読無
- 43) 木立雅朗: 五条坂の登り窯と京都の土, なごみ, 438号, pp.36-41(2016) 査読無
- 44) 上杉昌也, 矢野桂司: 個人の交通行動と近隣環境に関するジオデモグラフィクス分析, GIS-理論と応用(25巻1号), pp.11-22(2016)
- 45) 矢野桂司, 今村聡, 高野明彦, 阿辺川武: 『平安京オーバーレイマップ』の開発と拡張に関する一考察, 立命館文学(649号), pp.196-185(2017)
- 46) 矢野桂司: GIS をベースとした国勢調査のデータ公開の現状と課題—日本と英国の比較を通して—, 立命館文学(650号), pp.263-282(2016)
- 47) *細井浩一: 京都の染織文化の継承と革新~次世代情報技術を用いた染織ビジネスのブランド化, 『京染と精練染色』(67巻1号)(2016) 査読無
- 48) *細井浩一: クリエイティブ産業としての伝統工芸をく見せる>~3D 仮想空間におけるアーカイブと利活用環境, 『産業学会第54回全国研究会予稿集』, pp.67-70(2016) 査読無
- 49) Koichi Hosoi, Kazufumi Fukuda, Akito Inoue: Proposal and Validation of the Data Model of Video Game Database, Proceedings of Replaying Japan 2016, pp.59-60(2016) 査読有
- 50) 細井浩一, 谷端郷・米島万有子・福田一史・中谷友樹: 大規模災害発生時の帰宅困難に関わる学生の認知距離, 『立命館地理学』(28号), pp.39-54(2016) 査読有
- 51) 細井浩一, 福田一史, 井上明人: ゲーム DB のためのデータモデルに関する検討: LOD の適用を主たる課題として, 『日本デジタルゲーム学会 2016 年次大会予稿集』, pp.22-25(2016) 査読有
- 52) 田中聡: 京都学の研究素材としての「戦後教育資料」, 立命館大学人文学会、立命館文学、第 649 号, pp.66-77(2016) 査読無
- 53) 帖地真穂・木立雅朗: 京都における戦争遺跡の調査と活用, 別冊 季刊考古学(24号) pp.55-62(2015)
- 54) 矢野桂司: 地理空間情報が拓く未来の社会, 人と国土 21(4号), pp.6-9(2015)
- 55) 矢野桂司: 「地図力/GIS 技能」をもって社会を変える人材育成に向けて, 測量(4号), pp.6-7(2015)
- 56) 赤石直美, 福島幸宏, 矢野桂司: WebGIS を用いた戦後京都の記憶のアーカイブとその課題, 地理情報システム学会講演論文集(CD-ROM)(2015)
- 57) 青木 和人, 武田 幸司, 矢野 桂司: 固定資産税路線価格における路線価格連続性の可視化, 地理情報システム学会講演論文集(CD-ROM)(2015)
- 58) 上杉昌也, 樋野公宏, 矢野桂司: 建造環境と犯罪発生に関する都市間比較—ジオデモグラフィクスを活用した小地域分析, 地理情報システム学会講演論文集(CD-ROM)(2015)
- 59) *佐藤弘隆, 矢野桂司, 田中澄人: 祇園祭における Beacon 情報発信の実証実験, 人文科学とコンピュータシンポジウム論文集(情報処理学会シンポジウムシリーズ 25号), pp.31-36(2015)
- 60) 奥窪宏太・山路正憲・今村聡・矢野桂司・西山剛・川嶋将生: 洛中洛外図屏風の WEB 閲覧システムの構築, 人文科学とコンピュータシンポジウム論文集(情報処理学会シンポジウムシリーズ 25号), pp.37-42(2015)
- 61) 矢野桂司: 近代京都の歴史 GIS のための地理空間情報の整備, 立命館大学(645号), pp.255-273(2015)
- 62) *矢野桂司: 「大規模京町家のアーカイブ—京都市指定文化財長江家住宅を事例に—, 住総研 2014-15 年度研究助成論文(1411号), pp.121-132(2015)
- 63) Mitsuyuki INABA, Michiru TAMAI, Kenji KITAMURA, Ruck THAWONMAS, Koichi HOSOI, Akinori NAKAMURA, Masayuki UEMURA: Constructing Collaborative Serious Games for Cross-Cultural Learning in a 3D Metaverse, Proceedings of Replaying Japan Again: 3rd International Japan Game Studies

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 261013 |
| プロジェクト番号 | S1511026 |

Conference 2015, pp.84-85(2015)

- 64) 井上明人, 福田一史, 梁 宇熹, 辛注衡, 向江駿佑, 細井浩一: CERO レーティングと売上からみた家庭用ゲームソフトの開発方針の合理性について, 『日本デジタルゲーム学会 2015 年次大会予稿集』, pp.177-182(2015)
- 65) 福田一史, 井上 明人, 梁 宇熹, シン・ジュヒョン, 向江駿佑, 細井浩一: 家庭用ゲームソフトのネーミングについてのマーケティング的観点からの分析, 『日本デジタルゲーム学会 2015 年次大会予稿集』, pp.192-194(2015)
- 66) 松永伸司, 井上明人, 福田一史, 細井浩一: 研究マッピング(ゲーム領域)プロジェクトの実施状況と課題, 『日本デジタルゲーム学会 2015 年次大会予稿集』, pp.255-259(2015)

【テーマ 3】

- 67) Ruck Thawonmas, Kazuki Mori, Suguru Ito, Tomohiro Harada, and Kyung-Joong Kim: Feature Extraction of Gameplays for Similarity Calculation in Gameplay Recommendation, Proc. of 2017 IEEE 10th International Workshop on Computational Intelligence and Applications (IEEE IWCIA2017), pp.171-176(2017) 査読有
- 68) Ruck Thawonmas, Tung Nguyen, Ayumu Shinya, Tomohiro Harada: Segmentation Mask Refinement Using Image Transformations, IEEE Access, 5, pp.26409-26418(2017) 査読有
- 69) Ruck Thawonmas, Takahiro Kusano, Pujana Paliyawan, Tomohiro Harada: Towards Adaptive Motion Gaming AI with Player's Behavior Modeling for Health Promotion, Proc. of the 6th IEEE Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2017), pp.270-271(2017) 査読有
- 70) Ruck Thawonmas, Jorge Arturo Moran Bravo, Pujana Paliyawan, Tomohiro Harada: Intelligent Assistant for Providing Instructions and Recommending Motions During Fullbody Motion Gaming, Proc. of the 6th IEEE Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2017), pp.342-343(2017) 査読有
- 71) Ruck Thawonmas, Yuxuan Jiang, Tomohiro Harada: Procedural Generation of Angry Birds Fun Levels using Pattern-Struct and Preset-Model, 2017 IEEE Conference on Computational Intelligence and Games (CIG 2017), pp.270-271(2017) 査読有
- 72) *Zhenao Wei, Liliang Xiong, Kazuki Mori, Tung Duc Nguyen, Tomohiro Harada, Ruck Thawonmas, Keiko Suzuki, Masaaki Kidachi: Deep Features for Image Classification and Image Similarity Perception, Proc. of Japanese Association for Digital Humanities Conference 2017(JADH2017), pp.60-62(2017)
- 73) *Ruck Thawonmas, Suguru Ito, Makoto Ishihara, Tomohiro Harada: Towards implementation of Persona and Play Arc in a Fighting game, Proc. of Replaying Japan 2017, pp.106-108 査読有
- 74) *Suguru Ito, Makoto Ishihara, Marco Tamassia, Tomohiro Harada, Ruck Thawonmas, Fabio Zambetta: Procedural Play Generation According to Play Arcs Using Monte-Carlo Tree Search, Proc. of the 18th International Conference on Intelligent Games and Simulation (GAMEON' 2017), pp.67-71(2017) 査読有
- 75) Ruck Thawonmas, Misaki Kaidan, Tomohiro Harada: Integrating Surrogate Evaluation Model and Asynchronous Evolution in Multi-Objective Evolutionary Algorithm for Expensive and Different Evaluation Time, ACM Workshop on Parallel and Distributed Evolutionary Inspired Method (PDEIM) in Genetic and Evolutionary Computation Conference 2017 (GECCO2017) pp.1833-1840(2017) 査読有
- 76) *Ruck Thawonmas, Suguru Ito, Makoto Ishihara, Tomohiro Harada: Automatic Generation of Game Plays Considering the Play Arc by the AI in a Fighting Game, Proc. of 2017 NICOGRAPH International, pp.87(2017) 査読有
- 77) Ruck Thawonmas, Kazuki Mori, Ayumu Shinya, Tomohiro Harada: Feature Extraction of Game Plays for Procedural Play Generation, Proc. of 2017 NICOGRAPH International, pp.86(2017) 査読有
- 78) Ruck Thawonmas, Pujana Paliyawan, Takahiro Kusano, Yuto Nakagawa, Tomohiro Harada: Health Promotion AI for

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 261013 |
| プロジェクト番号 | S1511026 |

Full-body Motion Gaming, 2017 AAAI Spring Symposium Series (Well-Being AI: From Machine Learning to Subjective Oriented Computing), pp.720-725(2017) 査読有

79) Tomoaki Urata, Akira Maeda: An Entity Disambiguation Approach Based on Wikipedia for Entity Linking in Microblogs, Proceedings of the 6th International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI AAI 2017)(5pages) (2017) 査読有

80) *Yuting Song, Taisuke Kimura, Biligsaikhan Batjargal,, Akira Maeda: Linking the Same Ukiyo-e Prints in Different Languages by Exploiting Word Semantic Relationships across Languages, Conference Abstracts of Digital Humanities 2017, pp.603-605(2017) 査読有

81) Biligsaikhan Batjargal, Garmaabazar Khaltarkhuu, Akira Maeda: Creating a Digital Edition of Mongolian Historical Documents, Proceedings of the International Conference on Culture and Computing (Culture and Computing 2017), pp.151-152(2017) 査読有

82) *Yuting Song, Biligsaikhan Batjargal, Akira Maeda: Recognition and Transliteration of Proper Nouns in Cross-Language Record Linkage by Constructing Transliterated Word Pairs, International Journal of Asian Language Processing(27 巻 2 号)pp.111-125(2017) 査読有

83) Tomoaki Urata, Akira Maeda: An Entity Disambiguation Approach Based on Wikipedia and Word Embeddings for Entity Linking in Microblogs, Proceedings of the International MultiConference of Engineers and Computer Scientists 2018 (IMECS2018), pp.380-386(2017) 査読有

84) *Keisuke Katsura, Fumiko harada, Hiromitsu Simakawa: Stimulating Interests in Traditional Culture Using Guide Avatar Narrating Story in VR Space, Advances in Computing, Vol.8, No.1, pp.1-9(2017) 査読有

85) Hiroki Kitamura, Fumiko Harada, Yusuke Kajiwara, and Hiromitsu Shimakawa: Prediction of Crossing Driveways of a Distracted Pedestrian from Walking Characteristics, International Journal of Internet of Things, Vol.7, No.1, pp.1-9 (2017) 査読有

86) 石原 誠, 宮崎 泰地, 原田 智広,, THAWONMAS Ruck: 対戦格闘ゲームにおけるゲーム AI や操作法の違いが プレイヤーの感じる面白さに与える影響の分析, 情報処理学会論文誌, vol.57, no.11, pp.2414-2425(2016) 査読有

87) Kittipat Savetratanakaree, Kingkarn Sookhanaphibarn, Sarun Intakosum and Ruck Thawonmas: Borderline Over-sampling in Feature Space for Learning Algorithms in Imbalanced Data Environments, IAENG International Journal of Computer Science, vol. 43, no. 3, pp.363-373(2016) 査読有

88) Pujana Paliyawan, Takahiro Kusano, Yuto Nakagawa, Tomohiro Harada, Ruck Thawonmas: Health Promotion AI for Full-body Motion Gaming, Proc. of 2017 AAAI Spring Symposium Series (Well-Being AI: From Machine Learning to Subjective Oriented Computing), pp.720-725(2016) 査読有

89) *Ruck Thawonmas, Tomohiro Harada: AI for Game Spectators: Rise of PPG, Proc. of AAAI 2017 Workshop on What's next for AI in games, pp.1032-1033(2016) 査読有

90) Carlos A Torres Fernandez, Pujana Paliyawan, Chu Chun Yin, Ruck Thawonmas: Piano Learning Application with Feedback Provided by an AR Virtual Character, Proc. of the 5th IEEE Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2016), pp.187-188(2016) 査読有

91) Pujana Paliyawan, Ruck Thawonmas: Towards Ergonomic Exergaming, Proc. of the 5th IEEE Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2016), pp.321-322(2016) 査読有

92) Kingkarn Sookhanaphibarn Worawat Choensawat Komal Narang, Pujana Paliyawan, Ruck Thawonmas: Virtual Reality of Fire Evacuation Training in 3D Virtual World, Proc. of the 5th IEEE Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2016), pp.323-324(2016) 査読有

93) *Shubu Yoshida, Makoto Ishihara, Taichi Miyazaki, Yuto Nakagawa, Tomohiro Harada, Ruck Thawonmas: Application of Monte-Carlo Tree Search in a Fighting Game AI, Proc. of the 5th IEEE Global Conference on Consumer Electronics

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 261013 |
| プロジェクト番号 | S1511026 |

(GCCE 2016), pp.623-624(2016)査読有

- 94) Suguru Ito, Zikun Guo, Chun Yin Chu, Tomohiro Harada, Ruck Thawonmas: Efficient Implementation of Breadth First Search for General Video Game Playing, Proc. of the 5th IEEE Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2016), pp.626-626(2016)査読有
- 95) *Tung Nguyen, Ruck Thawonmas, Keiko Suzuki, Masaaki Kidachi: Comparisons of Different Configurations for Image Colorization of Cultural Images Using a Pre-trained Convolutional Neural Network, Proc. of the 6th Conference of Japanese Association for Digital Humanities (JADH2016), pp.60-63(2016)
- 96) Chun-Yin Chu, Suguru Ito, Tomohiro Harada, Ruck Thawonmas: Position-based Reinforcement Learning Biased MCTS for General Video Game Playing, Proc. of 2016 IEEE Conference on Computational Intelligence and Games (CIG 2016), pp.454-451(2016)査読有
- 97) Misaki Kaidan, Tomohiro Harada, Chun Yin Chu, Ruck Thawonmas: Procedural Generation of Angry Birds Levels with Adjustable Difficulty, Proc. of the 2016 IEEE Congress on Evolutionary Computation (CEC 2016), pp.1311-1316(2016)査読有
- 98) Kazuki Mori, Tung Nguyen, Tomohiro Harada, Ruck Thawonmas: An Improvement of Matrix Factorization with Bound Constraints for Recommender Systems, Proc. of the 2016 5th IIAI International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI-AAI 2016), pp.103-103(2016)査読有
- 99) Biligsaikhan Batjargal, Garmaabazar Khaltarkhuu, Akira Maeda: Named Entity Extraction from digitized texts of Mongolian Historical Documents in Traditional Mongolian Script, Conference Abstracts of Digital Humanities 2016, pp.734-735(2016)査読有
- 100) *Taisuke Kimura, Yuting Song, Biligsaikhan Batjargal, Fuminori Kimura, Akira Maeda: Identifying the Same Ukiyo-e Prints from Databases in Dutch and Japanese, Conference Abstracts of Digital Humanities 2016, pp.82-824(2016)査読有
- 101) Tomoaki Urata, Akira Maeda: Entity Linking of Artists Names in Japanese Music Articles, Proceedings of the 5th International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI AAI 2016), pp.179-184(2016)査読有
- 102) *Xiang Song, Jialiang Zhou, Fuminori Kimura, Akira Maeda: A Japanese-Chinese Cross-Language Entity Linking Method with Entity Disambiguation Based on Document Similarity, International Journal of Knowledge Engineering (2巻3号), pp.122-127(2016)査読有
- 103) *Yuting Song, Taisuke Kimura, Biligsaikhan Batjargal, Akira Maeda: Proper Noun Recognition in Cross-Language Record Linkage by Exploiting Transliterated Words, pp.83-86(2016)査読有
- 104) *Jialiang Zhou, Fuminori Kimura, Akira Maeda: Cross-language Entity Linking Adapting to User's Language Ability, Proceedings of the International MultiConference of Engineers and Computer Scientists 2017 (IMECS2017), pp.24-29(2016)査読有
- 105) *Momoko Kato, Hiromitsu Shimakawa: Recommendation of Tour Route from Tourist Motivation Improving Serendipity Occurrence, International Journal of Latest Research in Engineering & Technology, (IJLRET)(3巻2号), pp.26-36(2016)査読有
- 106) Kyoji Kawagoe, Yuka Wakita, Kenta Oku: Toward Fashion-brand Recommendation Systems using Deep-Learning: Preliminary Analysis, Journal of Knowledge Engineering, Vol.2, No.3, pp.129-131(2016)査読有
- 107) 川越恭二, 池田翔武, 奥健太: 楽曲遷移の滑らかさを考慮したプレイリスト推薦, 情報処理学会論文誌データベース TOD, 9巻4号, pp.1-5(2016)査読有
- 108) Bang Hai Le, Kien Quang Nguyen, Ruck Thawonmas: Bounded-SVD: A Matrix Factorization Method with Bound Constraints for Recommender Systems, Proc. of the 2nd International Research Conference on Emerging Information Technology and Engineering Solutions (EITES 2015), Pune, India, pp.23-26(2015)査読有

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 261013 |
| プロジェクト番号 | S1511026 |

- 109) Tung Nguyen, Kazuki Mori, Ruck Thawonmas: Image Colorization using a Deep Convolutional neural Network, Proc. of ASIAGRAPH2016, pp.49-50(2016)
- 110) Misaki Kaidan, Chun Yin Chu, Tomohiro Harada, Ruck Thawonmas: Procedural Generation of Angry Birds Levels That Adapt to the Player's Skills Using Genetic Algorithm, Proc. of the 2015 IEEE 4th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2015), pp.535-536(2015) 査読有
- 111) Yuto Nakagawa, Kaito Yamamoto, Chu Chun Yin, Tomohiro Harada, Ruck Thawonmas: Predicting the Opponent's Action Using the k-Nearest Neighbor Algorithm and a Substring Tree Structure, Proc. of the 2015 IEEE 4th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2015), pp.533-534(2015) 査読有
- 112) Makoto Ishihara, Taichi Miyazaki, Pujana Paliyawan, Chun Yin Chu, Tomohiro Harada, Ruck Thawonmas: Investigating Kinect-based Fighting Game AIs That Encourage Their Players to Use Various Skills, Proc. of the 2015 IEEE 4th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2015), pp.334-335(2015) 査読有
- 113) Pujana Paliyawan, Kingkarn Sookhanaphibarn, Worawat Choensawat, Ruck Thawonmas: Towards Universal Kinect Interface for Fighting Games, Proc. of the 2015 IEEE 4th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2015), pp.332-333(2015) 査読有
- 114) Yasutomo Kanetsuki, Ruck Thawonmas, Susumu Nakata: Optimization and Simplification of Dynamic Scripting with Evolution Strategy and Fuzzy Control in a Fighting Game AI, Proc. of the 2015 IEEE 4th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2015), pp.330-331 査読有
- 115) Supaphon Kamon, Tung Duc Nguyen, Tomohiro Harada, Ruck Thawonmas, Ikuko Nishikawa: Improving Heuristic Search for RTS-Game Unit Micromanagement Using Reinforcement Learning, Proc. of the 2015 IEEE 4th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2015), pp.25-26(2015) 査読有
- 116) 川瀬 寛太, レ・ハイ・バン, ターウオンマツ・ラック: 仮想空間環境におけるコンテキスト情報を活用した協調フィルタリング手法の提案と評価, 情報処理学会論文誌 56/10, pp.1988-1995(2015) 査読有
- 117) *Chun Yin Chu, Hisaaki Hashizume, Zikun Guo, Tomohiro Harada, Ruck Thawonmas: Combining Pathfinding Algorithm with Knowledge-based Monte-Carlo Tree Search in General Video Game Playing, Proc. of 2015 IEEE Conference on Computational Intelligence and Games (CIG 2015), Tainan, Taiwan, pp.523-529(2015) 査読有
- 118) Pujana Paliyawana, Kingkarn Sookhanaphibarna, Worawat Choensawata, Ruck Thawonmas: Body Motion Design and Analysis for Fighting Game Interface, Proc. of 2015 IEEE Conference on Computational Intelligence and Games (CIG 2015), Tainan, Taiwan, pp.360-367(2015) 査読有
- 119) Biligsaikhan Batjargal, Garmaabazar Khaltarkhuu, Akira Maeda: Personal Name Extraction from Mongolian Historical Documents Using Machine Learning, Proceedings of the 6th International Conference of Digital Archives and Digital Humanities (DADH2015), pp.419-430(2015) 査読有
- 120) *Biligsaikhan Batjargal, Akira Maeda, Ryo Akama: Providing Bilingual Access to Multiple Japanese Humanities Databases: Text Retrieval Using English and Japanese Queries, Proceedings of the 6th International Conference of Digital Archives and Digital Humanities (DADH2015), pp.431-442(2015) 査読有
- 121) Noriyoshi Nagai, Fuminori Kimura, Akira Maeda, Ryo Akama: Personal Name Extraction from Japanese Historical Documents Using Machine Learning, Proceedings of the International Conference on Culture and Computing (Culture and Computing 2015), pp.207-208(2015) 査読有
- 122) Biligsaikhan Batjargal, Garmaabazar Khaltarkhuu, Akira Maeda: An Approach to Named Entity Extraction from Mongolian Historical Documents, Proceedings of the International Conference on Culture and Computing (Culture and Computing 2015), pp.205-206(2015) 査読有
- 123) *Xiang Song, Jialiang Zhou, Fuminori Kimura, Akira Maeda: A Japanese-Chinese Cross-Language Entity Linking Method Based on Appropriateness of Term Description Pages, Proceedings of the 4th IIAI International Congress on

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 261013 |
| プロジェクト番号 | S1511026 |

Advanced Applied Informatics (IIAI AAI 2015), pp.234-238(2015) 査読有

124) *Taisuke Kimura, Biligsaikhan Batjargal, Fuminori Kimura, and Akira Maeda: Finding the Same Artworks from Multiple Databases in Different Languages, Conference Abstracts of Digital Humanities 2015(2015) 査読有

125) Takafumi Sato, Makoto Goto, Fuminori Kimura, Akira Maeda: Extracting Key Phrases for Suggesting Annotation Candidates from Japanese Historical Document, Conference Abstracts of Digital Humanities 2015(2015) 査読有

126) *Jialiang Zhou, Xiang Song, Fuminori Kimura, Akira Maeda: A Cross-Language Entity Linking Method Using Combination of Multiple Translation Methods, Proceedings of the 4th ICT International Student Project Conference (ICT-ISPC2015), 4pages(2015) 査読有

127) Hiromitsu Shimakawa, Dinh Thi Dong Phuong: Superior Factors to Distinguish Students to Be Cared in Introductory Programming Education, IIAI Information Engineering Express Journal, Vol.2/ No.1(2015)

128) 植村喜弘, 梶原祐輔, 島川博光: 足取り取得によるパーソナリティを考慮したユーザ状態の推定, 情報処理学会論文誌, Vol.56/ No.12, pp.1-12(2015)

129) 稲田脩二, 梶原祐輔, 島川博光: 農作業自動記録のための視点映像を用いた農作業判別, 電気学会論文誌 C, 135(9), pp.1149-1150(2015)

130) Masayoshi Asano, Yusuke Kajiwara, Hiromitsu Shimakawa: Supporting for Visually Handicapped to Walk Around with RFID Technologies, Sensors & Transducers, Vol.194/ Issue 11, pp. 69-75(2015)

131) Yoshihiro Uemura, Yusuke Kajiwara, Jianlong Zhou, Fang Chen, Hiromitsu Shimakawa: Estimating Human Physical States from Chronological Gait Features Acquired with RFID Technology, Sensors & Transducers, Vol.194/ Issue 11, pp. 76-83(2015)

132) Shota Shimayoshi, Shun Okamura, Yusuke Kajiwara, Hiromitsu Shimakawa: Recognizing Conscientious Degree in Instrumental Activity of Daily Living from Brightness Distribution, Sensors & Transducers, Vol.194/ Issue 11, pp. 106-113(2015)

133) Nobuaki Takaoka, Yusuke Kajiwara, Hiromitsu Shimakawa: Family Members Identification with Brightness Distribution Sensors to Self-sustaining of Power as Personal Actions, Sensors & Transducers, Vol.194/ Issue 11, pp. 114-122(2015)

134) 川越恭二: 小説的学術論文と研究発表のすすめ, 電子情報通信学会情報・システムソサイエティ誌, 20/ 1, pp.13-14(2015)

132) Yu Fang, Do Xuan Huy, Hung-Hsuan Huang, Kyoji Kawagoe: Multi-dimensional Time Series Approximation Using Local Features at Thinned-out Keypoints, Journal of Computers, 10/ 1, pp.1-11(2015)

<図書>

【テーマ1】

- 1) 西林孝浩: 【共同編集および巻頭解説】「(特集)アジアにおける技術・芸術と社会のダイナミクス」, 『立命館言語文化研究』29 巻 2 号, pp. 133-164(2017)
- 2) 編集執筆 青木美保子、翻訳 鈴木桂子: 『京都の墨流し染・糊流し染—その系譜と新たな可能性—』, 京都工芸繊維大学美術工芸資料館/立命館大学アート・リサーチセンター 文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」, pp.27(2016)
- 3) 鈴木桂子, 並木誠ほか: 『世界民族衣料資料』(増補版), ベストプリント(2016)
- 4) *鈴木桂子, 加茂瑞穂: 『国際ワークショップ 学術資料としての『型紙』—資料の共有化と活用に向けて報告書』, 立命館大学アート・リサーチセンター(2016)
- 5) 赤間亮: 春画入門 : 浮世絵の豊潤なる世界(春画の想像力—歌舞伎のパロディー—), 河出書房新社, pp.75-77(2015)

【テーマ2】

- 6) 木立雅朗, 松山侑揮, 二橋慶太郎: 京式登り窯の民俗考古学的研究 II, 立命館大学文学部 pp. 1-68、写

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 261013 |
| プロジェクト番号 | S1511026 |

真図版 1-12(2017)

- 7) *佐藤弘隆, 矢野桂司: 船鉾—財団法人設立五十周年記念誌—, 公益財団法人祇園祭船鉾保存会 (2017)
- 8) 矢野桂司: Historical Atlas (in Korean), Northeast Asian History Foundation, pp.175-191 (2016)
- 9) Keiji Yano: American Association of Geographers, The Wiley-AAG International Encyclopedia of Geography, Wiley (2016)
- 10) *矢野桂司, 佐藤弘隆, 河角直美: 市民参加型 GIS による祭礼景観の復原—昭和30年以前の京都祇園祭の山鉾行事における松原通一, 若林芳樹・今井修・瀬戸寿一・西村雄一郎編著『参加型 GIS の理論・技術・応用』, 古今書院, pp.118-124 (2016)
- 11) 矢野桂司: ジオデザインにおける市民参加の可能性, 若林芳樹・今井修・瀬戸寿一・西村雄一郎編著『参加型 GIS の理論・技術・応用』, 古今書院, pp.22-27 (2016)
- 12) *矢野桂司: 京町家の空き家化, 由井義通・久保倫子・西山弘泰編『都市の空き家問題 なぜ? どうする?』古今書院, pp.34-41 (2015)
- 13) 矢野桂司: GIS ベースの観光産業関連統計の活用に関する試論—京都市の経済センサスを中心に—, 立命館大学地理学教室編『観光の地理学』文理閣, pp.62-83 (2015)
- 14) 田中聡, 小澤卓也, 水野博子(編): 教養のための現代史入門, ミネルヴァ書房 (2015)
- 15) 細井浩一: ゲームってなんでおもしろい?, 角川アスキー総合研究所, pp.134-135, (2015)

【テーマ 3】

- 16) *Fuminori Kimura, Jialiang Zhou, Akira Maeda: Japanese-Chinese Cross-Language Entity Linking Adapting to User's Language Ability, In Sio-Iong Ao, Haeng Kon Kim, Oscar Castillo, Alan Hoi-Shou Chan, and Hideki Katagiri, editors, Transactions on Engineering Technologies, chapter 28, Springer Singapore, pp.383-397 (2017)
- 17) 島吉翔太, 梶原祐輔, 島川博光: ひと見守りテクノロジー, エヌ・ティー・エス, 第2章, 第5節 (2017)
- 18) 前田 亮, 西原 陽子: 情報アクセス技術入門 --- 情報検索・多言語情報処理・テキストマイニング・情報可視化, 森北出版 pp.1-72, 108-114 (2017)
- 19) 原田史子, 島川博光: 線形代数学に基づくデータ分析法, 共立出版 (2016)
- 20) 後藤 真, 佐藤 貴文, 木村 文則, 前田 亮: 複数の研究者による史料注釈を可能とする Web システムの可能性 —『東大寺要録』を題材に— (栄原 永遠男, 佐藤 信, 吉川 真司(編), 東大寺の美術と考古, 東大寺の新研究 1), 法蔵館, pp.595-611 (2015)

【テーマ 1&3】

- 21) *Biligsaikhan Batjargal, Akira Maeda, Ryo Akama: Providing Bilingual Access to Multiple Japanese Humanities Databases: Text Retrieval Using English and Japanese Queries (In Jieh Hsiang, editor, Digital Humanities: Between Past, Present, and Future), National Taiwan University Press, pp.351-367 (2016)

<学会発表>

【テーマ 1】

- 1) Ryo Akama, Ryoko Matsuba: The Keyes catalogue raisonne online., Late Hokusai: Thought, Technique, Society Workshop and Symposium, The British Museum, UK, 2017.5
- 2) Ryo Akama: Japanese Woodblock Prints of Tales and Plays in Landscape Format., Landscapes in Art, Theory, and Practice across Media, Time, and Place, Museum für Asiatische Kunst, Small Lecture Room, Berlin, 2017.7
- 3) 赤間亮: デジタルとアナログの狭間で —パフォーミングアーツにおけるデジタルヒューマニティーズ—, 能楽のウェブ発信とその未来 —デジタル資料アーカイブから新たなコンテンツ制作の試みまで—, 法政大学市ヶ谷キャンパス, 2017/10
- 4) 赤間亮: 尾上松之助遺品資料のデジタル・アーカイブズ, 日本映画 120 年記念特別上映・講演会「日本映画の父牧野省三先生／日本映画初の大スター尾上松之助を観る」, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2017 年 12 月
- 5) *Ryo Akama: The Art Research Center's Digital Archive System, On the Digital Archive and Its Uses for Japanese Humanities: A Collaborative Workshop by the Art Research Center of Ritsumeikan University and the University of California, Berkeley, 2018.2
- 6) 鈴木桂子: Stencils Made in Ise and Used in Kyoto and the World, 国際シンポジウム「Global Costume:

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 261013 |
| プロジェクト番号 | S1511026 |

- Kosode, Dofuku, Banyan, Kebaya and Japanese Rok 1500-1850. A dialogue of Global Circulation between Art History, Economy and Material Culture”, 九州大学, 2017.7
- 7) 鈴木桂子: Comment on “The Global Circulation and Transformation of Two Types of Embroideries Introduced into Japan. From China to Japan, India, Europe and South America,” presented by Masako Yoshida, 国際シンポジウム”Global Circulations and Transformations: Art and Textile in East Asia 1540-1760”, 京都工芸繊維大学, 2017.7
 - 8) 鈴木桂子: Lecture on Kyo-yuzen and Viewing of the ARC Stencil Collection, 国際シンポジウム”Popularizing Fabrics and Clothing: Kyoto Yuzen Industry in broader context 1600-1970”, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2017.6
 - 9) 鈴木桂子: Digital Humanities for Japanese Arts and Cultures, III F Japan 京都ラウンドテーブルデジタル化した文化資源を WEB 公開するための世界標準規格 III F—その可能性と将来像一, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2017年10月
 - 10) *鈴木桂子: “Katagami Designs from a Global Perspective”, 国際シンポジウム”Textile Pattern Designs in the Global Entanglement: Katagami, Batik, Sarasa and ‘African Prints’ on the Move, 1800-2000”, 立命館大学, 2017.10
 - 11) *Keiko Suzuki: “On Textile Pattern Designs’ Global Entanglement with its focus on Batik, “African Prints” and Katagami Stencils”, Discussion Forum, Indonesian Institute of Sciences (LIPI), インドネシア・ジャカルタ市, 2018.3
 - 12) *金子貴昭: 浮世絵の板木とその研究活用, 8次原州世界古版画文化祭国際学術大会, 2017年10月
 - 13) *Takaaki Kaneko: Status of Japanese Woodblocks; The Process of Pre-digitalization and Conservation, International Symposium “Preservation of Woodblocks in Asia Sharing Experience”, 2017.11
 - 14) 金子貴昭, 山路正憲: テキストアノテーションシステムによる歴史資料(文献)の有機的活用—江戸期出版記録を事例として, アート・ドキュメンテーション学会第10回秋季研究集会, 印刷博物館, 2017年11月
 - 15) 金子貴昭: 『奥細道菅菰抄』の板株再考, 京都俳文学研究会12月例会, 2017年12月
 - 16) 西林孝浩: アジアの宗教建築・美術における山岳崇拜, 横幹連合コンファレンス(OS7:文化とコンピューティング), 立命館大学朱雀キャンパス, 2017年12月
 - 17) 西林孝浩: 中央アジア出身画家曹仲達について—絵画様式の復元—, アジアにおける技術・芸術と社会のダイナミクス第4回研究会, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2018年2月
 - 18) *西林孝浩: アジア圏文化資源研究開拓プロジェクト, アジア圏文化資源研究開拓プロジェクト国際ワークショップ「東アジア演劇研究におけるデジタル・ヒューマニティーズの可能性」, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2018年2月
 - 19) 三須祐介: 上演パンフレットのデジタル・アーカイブ化: 中国上海地域の演劇を例に, 研究集会「演劇アーカイブの最前線: イギリスと中国」, 2017年6月
 - 20) 三須祐介: 戯単から見る上海地方劇: 新中国建国前後の滬劇を中心に, 立命館大学国際言語文化研究所2017年度萌芽的プロジェクト B7 アジアにおける技術・芸術と社会のダイナミクス第3回研究会, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2017年7月
 - 21) 三須祐介: 従《秋海棠》到《紅伶涙》: 現代中国文芸作品中的跨界與男性形象的“漂移”, 漂泊與越境: 東亜視域中的作家流徙與文学創生国際学術工作坊, 2017年9月
 - 22) 三須祐介: 「秋海棠」から「紅伶涙」へ: 移ろう“男性性”をめぐる, 日本現代中国学会第67回全国学術大会, 愛知大学名古屋キャンパス, 2017年10月
 - 23) 赤間亮: 立命館 ARC の海外デジタルアーカイブ、その現状報告と持続可能なデジタルアーカイブへの挑戦, 2016年度第1回 関西地区部会(研究会), 近畿大学, 2016年6月
 - 24) 鈴木桂子: Reshaping the “Kimono” in the 20th Century, AAS in Asia, Kyoto 2016, 同志社大学, 2016.6
 - 25) 鈴木桂子: Japan’s Souvenir Business for Foreign Tourists after WWII, AAS in Asia, Kyoto 2016, 同志社大学, 2016.6
 - 26) 鈴木桂子: A Uniform to Embody a Tropical Paradise: Domestication of the Aloha Shirt in Asia, Dressing Global Bodies, University of Alberta, 2016.7
 - 27) 鈴木桂子: Design, Production, and Marketing of African Printed Cloth in the Twentieth Century: Shifting Dominance from Europe to Japan, Dressing Global Bodies, University of Alberta, 2016.7
 - 28) 鈴木桂子: 「国際的な型紙研究の基盤構築と活用に向けて」, 「学術資料としての『型紙』—資料の共有化と活用に向けて」, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2016年10月
 - 29) *鈴木桂子: The Art Research Center and its Digital Humanities Projects, Ritsumeikan University, 海外日本美術資料専門家(司書)の招へい・研修・交流事業, アート・リサーチセンター, 2016年12月
 - 30) 鈴木桂子: Internationalization of Kimono Culture Since the Meiji Period: A Case Study of the Textile

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 261013 |
| プロジェクト番号 | S1511026 |

Industry and Fashion Business in Kyoto, Third Kansai Workshop on Global Fashion Business: Textile Industry and Fashion Business in the 19th and 20th Centuries: International Comparison, Kyoto University, 2016.12

- 31) 金子貴昭:立命館大学アート・リサーチセンターの版画関連データベースと東アジア版画共同研究への応用の可能性, 7 次原州世界古版画文化祭国際学術大会、韓国古版画博物館(韓国・原州市), 2016 年 5 月
- 32) 金子貴昭:続・日本近世期の板木現存状況, 東亜古代彫版印刷与版片国際学術検討会、揚州会議中心(中国・揚州市), 2016 年 10 月
- 33) *三須祐介:上海演劇資料のデジタル・アーカイブ化の試みとその応用, 国際ワークショップ「東アジア演劇研究におけるデジタル・ヒューマニティーズの可能性」, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2017.2
- 34) *赤間亮:Introduction of the ARC: Its platform and system to be employed for advanced-level research projects, Towards International Collaboration among Centers for East Asian and Japanese Studies, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2016.1
- 35) *赤間亮:共同研究拠点のための ARC ポータルデータベース設計—WEB 上の資源を統合したマルチメディア型研究データベース—, アジア圏文化資源研究開拓プロジェクト国際ワークショップ—アジア出土遺物デジタルアーカイブの可能性—, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2016 年 2 月
- 36) *赤間亮:An Introduction of ARC digital archive model and the portal database for Japanese cultural heritage, International Conference “Japanese Cultural Assets and Digitalization” フランス ウンターリンデン美術館, 2016 年 3 月
- 37) 鈴木桂子:京都の染色産業とデジタル化, 日本の文化財とデジタル化, Unterlinden Museum, France, 2016 年 3 月
- 38) 鈴木桂子:Kimono Culture in Twentieth-Century Global Circulation, Symposium “Linking Cloth-Clothing Globally: 18-20th Century Mapping”, 東京大学東洋文化研究所, 2015 年 8 月
- 39) 金子貴昭:板木観察と出版研究, 「官版日誌類に関する史料学の構築および戊辰戦争期の情報と地域に関する学際的研究」公開研究会(平成 27 年度), 立命館大学アート・リサーチセンター, 2016 年 2 月
- 40) 金子貴昭:板木による板株管理の成立前後, 京都俳文学研究会 11 月例会, 龍谷大学, 2015 年 11 月

【テーマ2】

- 41) 塚本章宏、矢野桂司:「日本の古地図ポータルサイト」、GIS Day in 関西 2018、立命館大学、2018 年 3 月
- 42) 塚本章宏、矢野桂司:「趣旨説明:日本の古地図ポータルサイト」、2017 年国際ワークショップ「日本の古地図ポータルサイト」、立命館大学、2018 年 3 月
- 43) 塚本章宏、矢野桂司:「カリフォルニア大学バークレー校所蔵古地図コレクションの来歴と今後の展開—渡米からデジタルアーカイブまで—」、2017 年国際ワークショップ「日本の古地図ポータルサイト」、立命館大学、2018 年 3 月
- 44) 山本峻平、佐藤弘隆、高橋彰、河角直美、井上学、矢野桂司:デジタルアーカイブ写真の GIS 化とその活用—「京都の鉄道・バス写真データベース」の構築—、人文科学とコンピュータシンポジウム論文集(情報処理学会シンポジウムシリーズ)、大阪府立大学、2017 年 12 月
- 45) 鎌田遼、矢野桂司:「日本版 Map Warper の構築と活用」、第 26 回学術研究発表大会、宮城大学大和キャンパス、2017 年 10 月
- 46) 上杉昌也、矢野桂司:「すまいの耐震化の普及・支援のためのジオデモグラフィクスの活用」、第 26 回学術研究発表大会、宮城大学大和キャンパス、2017 年 10 月
- 47) 高橋彰、河角直美、山路正憲、山本俊平、佐藤弘隆、今村聡、矢野桂司:「クラウドソーシングを活用した写真資料(古写真)の地理情報等の同定方法の検討とその課題—京都市電のデジタルアーカイブ写真を事例として—」、第 26 回学術研究発表大会、宮城大学大和キャンパス、2017 年 10 月
- 48) 青木和人、中谷友樹、矢野桂司:「京都地籍図を用いた大正期における地価の時空間分析」、第 26 回学術研究発表大会、宮城大学大和キャンパス、2017 年 10 月
- 49) 花岡和聖、中谷友樹、矢野桂司:「時間別滞留人口分布に基づく都市空間構造の把握—モバイル空間統計の活用—」、第 26 回学術研究発表大会、宮城大学大和キャンパス、2017 年 10 月
- 50) 青木和人、中谷友樹、矢野桂司:「京都地籍図を用いた大正期における地価の時空間分析」、第 26 回学術研究発表大会、宮城大学大和キャンパス、2017 年 10 月
- 51) 木立雅朗:「五条坂の窯業から見た「工芸」の実態—京焼・理化学陶磁器・民藝—」、近代京都科研発表会、京都工芸繊維大学美術工芸資料館、京都府京都市、2017 年 9 月
- 52) Kazufumi Fukuda, Akito Inoue, Koichi Hosoi: Challenges for data-based approaches to videogame culture. Data-based approaches to local and global video game cultures: opportunities, challenges, future directions

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 261013 |
| プロジェクト番号 | S1511026 |

- (Diggr-Workshop), Leipzig University Library, 2017.9.
- 53) Koichi Hosoi: A short story on the activities of game preservation in Ritsumeikan University. “Kulturgut Computerspiel...”Eine international Tagung des Computerspiele..., Berlin town hall, 2017.9.
 - 54) 細井浩一:「ファッション教育におけるイノベーションと社会化サービスの可能性」、国際学術検討会『ファッション・イノベーション・社会化サービス—世界の中の大連と日本—』、大連工業大学、2017年9月
 - 55) 木立雅朗:「石川県小松市・那谷金比羅山窯跡群の大型窯」、窯跡研究会第16回研究会、備前焼伝統産業会館、岡山県備前市、2017年8月
 - 56) Jon-Paul Dyson, Aki Nakamura, Martin Roth, Geoffrey Rockwell, Koichi Hosoi: Game Preservation Roundtable. Replaying Japan 2017, NY, US, 2017.8.
 - 57) Keiji Yano: Virtual Kyoto Platform. Open Cultural Heritage Scholarship Workshop, Ritsumeikan University, 2017.6.
 - 58) Ryo Kamata, Benjamin Lewis, Keiji Yano: A Japanese Old Maps Online: Toward an Open Platform for Collaborative Research in the Digital Humanities. International Cartographic Congress 2017, Marriott Wardman Park Hotel, Washington DC, 2017.6.
 - 59) Koichi Hosoi: Virtual exhibition of Japanese Cultural Assets. “Digital Cultural Heritage Business and Open Data: Bringing Rome to Japan”, Japan-UK Research and Education Network for Knowledge Economy Initiatives (RENKEI) Workshop, Ritsumeikan University, 2017.6.
 - 60) 田島靖大、濱岡宏理、森田真由香、木立雅朗:「五条坂京焼登り窯の民俗考古学的調査」、日本考古学協会第83回総会研究発表、大正大学、東京都、2017年5月
 - 61) 木立雅朗:「伝統工芸の民俗考古学的調査」、近代京都科研発表会、京都工芸繊維大学美術工芸資料館、京都市、2017年4月
 - 62) 木立雅朗:「須恵器の大甕製作技術とロクロ」、窯跡研究会・羅州文化財研究会・立命館大学歴史考古学ゼミ検討会、立命館大学朱雀キャンパス、京都市、2017年3月
 - 63) 福田一史、井上 明人、細井浩一:「ゲーム DB のためのデータモデルに関する検討: LOD の適用を主たる課題として」、日本デジタルゲーム学会 2016 年次大会、星城大学、2017年3月
 - 64) 鎌田遼、矢野桂司:「オープンプラットフォームによる日本の古地図オンラインの構築」、日本地理学会春季学術大会、筑波大学、2017年3月
 - 65) 谷端郷、中谷友樹、花岡和聖、矢野桂司:「ジオデザインによる京都府与謝野町の将来計画」、日本地理学会春季学術大会、筑波大学、2017年3月
 - 66) 矢野桂司:「現場教員のための地図/GIS 研修の産官学連携による支援活動」、日本学術会議公開シンポジウム「高等学校地理総合(仮称)必修修化による地理教育への社会的期待と課題—現場の地理歴史科教員を支援するために日本学術会議は何ができるか—」、日本学術会議講堂、2016年12月
 - 67) 上杉昌也、矢野桂司:「居住者属性から見た近隣生活施設へのアクセシビリティ格差—ジオデモグラフィクスを活用した小地域分析」、2016年人文地理学会大会、奈良大学、2016年11月
 - 68) 青木和人、武田幸司、中谷友樹、矢野桂司:「地価分布状況に対応した固定資産税路線価検証のための自然分類手法の提案」、第25回学術研究発表大会、立正大学品川キャンパス、2016年10月
 - 69) 武田幸司、青木和人、中谷友樹、矢野桂司:「墓石色境からみる分類手法の検討」、第25回学術研究発表大会、立正大学品川キャンパス、2016年10月
 - 70) 福島栄寿、田中聡:「岡和田晃『向井豊昭の闘争—異種混交性(ハイブリディティ)の世界文学』(未来社、2014年)を読む」、現代思想研究会、京都府京都市、2016年9月
 - 71) Keiji Yano: Historical GIS and Digital Humanities based on Virtual Kyoto. HARVARD JAPAN EVENTS Fall 2016, Harvard University, 2016.9.
 - 72) Kazufumi Fukuda, Akito Inoue, Koichi Hosoi: Proposal and Validation of the Data Model of Video Game Database. Replaying Japan 2016, Leipzig New City Hall, 2018.8.
 - 73) Keiji Yano: Virtual Kyoto based on Digital Humanities. International Geographical Congress 2016.K34: VGE as a Key Component of Geographic Knowledge Engineering, China, 2016.8.
 - 74) 河野学、生川 慶一郎、矢野桂司:「すまいに関する意識調査に基づく住宅の耐震化普及啓発の一考察—既存建築物の長寿命化を目的とした支援制度に関する研究(その2)—」、2016年度日本建築学会大会建築社会システム、福岡大学、2016年8月
 - 75) *木立雅朗:「戦前の友禅図案から見た女性と戦争—戦争柄図案と裏打ち文書を中心に—」、女性史総合研究会 第190回例会、ウイングス京都、京都市、2016年7月
 - 76) *細井浩一:「クリエイティブ産業としての伝統工芸をく見せる>~3D 仮想空間におけるアーカイブと利活用環境」、2016年度(第54回)産業学会全国研究会、立命館大学大阪いばらきキャンパス、2016年6月
 - 77) Keiji Yano: Historical GIS and spatial humanities based on Virtual Kyoto. CASA Lunch Time Seminar,

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 261013 |
| プロジェクト番号 | S1511026 |

CASA, UCL, London, UK, 2016.6.

78) 矢野桂司:「英国の Postcode から何が分かるか?—地理空間情報活用の最前線」、第3回立命館セミナー・シリーズ、ジェトロ・ロンドン 2016年6月

79) 岡田麻衣子、木立雅朗:「近現代登り窯の発掘調査—京都市井野祝峰窯・奈良市赤膚山元窯の事例」、女性史総合研究会日本考古学協会第82回総会 研究発表 ポスターセッション、東京学芸大学、東京都、2016年5月

80) Keiji Yano: Virtual Kyoto: Perspectives on Historical GIS and spatial humanities. 2016 International Seminar on the Making of Historical Atlas: Historical Atlas – Its concepts and methodologies, the Korea Press Center, 2016.5.

81) Masanori Yamaji, Satoshi Imamura, Masao Kawashima, Kota Okukubo, Tsuyoshi Nishiyama, Keiji Yano: WebGIS-based Application for Compering Folding Screens of Rakuchū rakugai-zu (Scenes in and around Kyoto) with Maps. International Cartographic Association: Commission on Cartographic Heritage into the Digital jointly with the 20th Conference of the Map, National Library of Latvia, 2016.4.

82) 木立雅朗: 陶器製手榴弾と沖縄・京都, シンポジウム 京都と首里, 沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館, 2015年10月

83) 木立雅朗: 藤平陶芸の登り窯と京焼—藤平伸の背景—, 夢つむぐ人 藤平伸の世界 展 講演会, 菊池寛実記念 智美術館 2015年10月

84) 木立雅朗, 帖地真穂: 京都市内の家屋内に残る民用「防空壕」の研究—近現代考古学と「京都学」の視点から—, 日本考古学協会総会 研究発表 ポスターセッション, 帝京大学八王子キャンパス, 2015年5月

85) 矢野桂司: Geo-spatial information in Virtual Kyoto: Collaboration with museums and local governments, Japanese Cultural Assets and Digitalization, フランス ウンターリンデン美術館, 2016年3月

86) 矢野桂司: ジオデザイン—人口減少社会のまちづくり, 日本地理学会春季学術大会, 日本大学, 2016年3月

87) 矢野桂司: 個人の交通行動と建造環境の関係に関するジオデモグラフィクス分析, 日本地理学会春季学術大会, 日本大学, 2016年3月

88) 矢野桂司: ジオデモグラフィクスとは?, Mosaic カンファレンス 2016, 山王健保会館, 2016年2月

89) 矢野桂司: Introduction of the ARC's Research Projects Using GIS, Towards International Collaboration among Centers for East Asian and Japanese Studies, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2016年1月

90) 矢野桂司: 一般社団法人 地理情報システム学会, 学術フォーラム, 2016年1月

91) 矢野桂司: ジオデモグラフィクスからみる教育地域格差, 2015年人文地理学会大会, 大阪大学豊中キャンパス, 2015年11月

92) 矢野桂司: 草津市のオープンデータ推進とその活用方法, 第24回 GISA 学術研究発表大会, 慶應義塾大学三田キャンパス, 2015年10月

93) 矢野桂司: 歴史 GIS の新たな展開, 第4回空間情報エグゼクティブセミナー, NTT ラーニングシステムズ Learning Square 新橋, 2015年10月

94) 矢野桂司: バーチャル京都で時空散歩, 岐阜県古地図文化研究会, 岐阜県図書館, 2015年6月

95) 細井浩一: ビデオゲームの社会的影響と受容—ファミコンを事例として—, 京都ゲームカンファレンス 2016, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2016年3月

96) 松永伸司, 井上 明人, 福田一史, 細井浩一: 研究マッピング(ゲーム領域)プロジェクトの実施状況と課題, 日本デジタルゲーム学会 2015年次大会, 芝浦工業大学大宮キャンパス, 2016年2月

97) 福田一史, 井上 明人, 梁 宇熹, シン・ジュヒョン, 向江駿佑, 細井浩一: 家庭用ゲームソフトのネーミングについてのマーケティング的観点からの分析, 日本デジタルゲーム学会 2015年次大会, 芝浦工業大学大宮キャンパス, 2016年2月

98) 井上明人, 福田一史, 梁 宇熹, 辛注衡, 向江駿佑, 細井浩一: CERO レーティングと売上からみた家庭用ゲームソフトの開発方針の合理性について, 日本デジタルゲーム学会 2015年次大会, 芝浦工業大学大宮キャンパス, 2016年2月

99) 細井浩一: コンテンツ循環の中心と周辺, 第3回「コンテンツ×異業種コラボレーションセミナー」, 東京ビッグサイト, 2015年11月

100) 細井浩一: 日本・石川県文化創意産業発展与新的地域振興模式, 中日文化創意産業与地域創新国際学術研討会(招待講演), 大連工業大学, 2015年9月

101) Mitsuyuki INABA, Michiru TAMAI, Kenji KITAMURA, Ruck THAWONMAS, Koichi HOSOI, Akinori NAKAMURA, Masayuki UEMURA: Constructing Collaborative Serious Games for Cross-Cultural Learning in a 3D Metaverse, Replaying Japan Again: 3rd International Japan Game Studies Conference 2015, 立命

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 261013 |
| プロジェクト番号 | S1511026 |

館大学, 2015 年 5 月

- 102) Masayuki UEMURA, Koichi HOSOI, Akinori NAKAMURA (Chair), Jérémie PELLETIER-GAGNON, Geoffrey ROCKWELL: At the Time of the Famicom, Replaying Japan Again: 3rd International Japan Game Studies Conference 2015, 立命館大学, 2015 年 5 月

【テーマ 3】

- 103) 李 康穎、バトジャルガル ビルゲサイハン、前田 亮: 「生成モデルによる篆書体の文字認識手法の提案」、第 10 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (DEIM2018)、清風荘、福井県あわら市、2018 年 3 月
- 104) 梁 燦彬、前田 亮: 「専門用語の活用による学術論文の生成的要約手法」、第 10 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (DEIM2018)、清風荘、福井県あわら市、2018 年 3 月
- 105) 南谷 悠大、前田 亮: 「組み合わせを考慮した献立検索手法の提案」、第 10 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (DEIM2018)、清風荘、福井県あわら市、2018 年 3 月
- 106) 三品 博崇、青山 敦、前田 亮: 「経営哲学に関する講演録を用いた質問応答システム」、第 10 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (DEIM2018)、清風荘、福井県あわら市、2018 年 3 月
- 107) WANG Yu, 前田 亮: 「トピックモデルを用いたツイーターフォロー情報からのユーザ嗜好の推測手法の提案」、第 10 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (DEIM2018)、清風荘、福井県あわら市、2018 年 3 月
- 108) 浦田 智昭、前田 亮: 「マイクロブログを対象にしたエンティティリンクにおける語義曖昧性解消」、第 10 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (DEIM2018)、清風荘、福井県あわら市、2018 年 3 月
- 109) *王嘉韻、川越恭二: 「Ancient Japanese Painting Recommendation for Non-Japanese Novices」、第 10 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (DEIM2018)、清風荘、福井県あわら市、2018 年 3 月
- 110) 李 康穎、バトジャルガル ビルゲサイハン、前田 亮: 「篆書体による蔵書印の文字認識の試み」、第 7 回知識・芸術・文化情報学研究会、立命館大学梅田キャンパス、大阪府大阪市、2018 年 2 月
- 111) Kaiyuan Bai, Kyoji Kawagoe: Background Music Recommendation System Based on User's Heart Rate and Elapsed Time. International Conference on Computer and Automation Engineering (ICCAE2018), Brisbane, Australia, 2018.2.
- 112) Shobu Ikeda, Kenta Oku, Kyoji Kawagoe: Music Playlist Recommender System AFT-IS. International Conference on Computer and Automation Engineering (ICCAE2018), Brisbane, Australia, 2018.2.
- 113) *Jiayun Wang, Kyoji Kawagoe: A Recommender System for Ancient Books, Pamphlets and Paintings in Ritsumeikan Art Research Center Database. International Conference on Computer and Automation Engineering (ICCAE2018), Brisbane, Australia, 2018.2.
- 114) 李 康穎、バトジャルガル ビルゲサイハン、前田 亮: 「白川フォントの画像データに基づく手書き篆書文字検索支援」、第 8 回横幹連合コンファレンス、立命館大学朱雀キャンパス、京都府京都市、2017 年 12 月
- 115) *Song Yuting, バトジャルガル ビルゲサイハン、前田 亮: 「複数言語からなるデジタルコレクションからの同一浮世絵作品の同定手法」、第 8 回横幹連合コンファレンス、立命館大学朱雀キャンパス、京都府京都市、2017 年 12 月
- 116) *バトジャルガル ビルゲサイハン、前田 亮: 「日本の人文系データベースへのバイリンガル並列アクセスの実現 -横断検索システムの開発-」、第 8 回横幹連合コンファレンス、立命館大学朱雀キャンパス、京都府京都市、2017 年 12 月
- 117) 李 康穎、バトジャルガル ビルゲサイハン、前田 亮: 「古代文字フォントの画像データに基づく手書き篆文字の検索支援」、人文科学とコンピュータシンポジウム、大阪市立大学杉本キャンパス、大阪府大阪市、2017 年 12 月
- 118) Hiroki Kitamura, Yusuke Kajiwara, Hiromitsu Shimakawa: Prediction of Pedestrian Crosswalk at Distraction Reflecting Walking Characteristics. The 6th the International Conference on Information Technology and Its Applications, Danang, Vietnam, 2017.12.
- 119) Hiroki Kitamura, Yusuke Kajiwara, Hiromitsu Shimakawa: Improve meta-recognition ability to construct good questions from Browsing Log of e-Learning Materials. The 6th the International Conference on Information Technology and Its Applications, Danang, Vietnam, 2017.12.
- 120) *Keisuke Katsura, Hiromitsu Shimakawa: Stimulating Interest by Guide Avatar in Virtual Reality Space. The 6th the International Conference on Information Technology and Its Applications, Danang, Vietnam, 2017.12.
- 121) So Asai, Hiromitsu Shimakawa: Automatic Scoring System of Fill-in-the-Blank Tests to Measure

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 261013 |
| プロジェクト番号 | S1511026 |

Programming Skills. The 6th the International Conference on Information Technology and Its Applications, Danang, Vietnam, 2017.12.

122) Dinh Thi Dong Phuong, Hiroimitsu Shimakawa: Impartment of Japanese Farming into Vietnam Remotely with IoT Considering Motivation of Farmers. The 6th the International Conference on Information Technology and Its Applications, Danang, Vietnam, 2017.12.

123) *Jiayun Wang, Kyoji Kawagoe: Ukiyo-e Recommender System Using Restricted Boltzmann Machine. 19th International Conference on Information Integration and Web-based Applications & Services (iiWAS2017), Satzburug, Austria, 2017.12.

124) Shobu Ikeda, Kenta Oku, Kyoji Kawagoe: Music Playlist Recommendation Using Acoustic-Feature Transition inside the Song. 15th International Conference on Advances in Mobile Computing and Multimedia (MoMM2017), Satzburug, Austria, 2017.12.

125) Emi Takemoto, Yusuke Kajiwara, Hiroimitsu Shimakawa: Estimating Emotion for Each Personality to Prevent School Dropout. The 8th International Conference on Sensor Device Technologies and Applications (SENSORDEVICES 2017), Rome, Italy, 2017.9.

126) So Asai, Yoshiharu Yamauchi, Yusuke Kajiwara, Hiroimitsu Shimakawa: Generating Fill-in-the-Blank Tests to Detect Understanding Failures of Programming. The 9th International Conference on Advances in Future Internet (AFIN 2017), Rome, Italy, 2017.9.

127) Takahisa Oe, Shinya Yonekura, Hiroimitsu Shimakawa: Immersion Discriminated from Browsed Information in Writing Document Referring Web Pages. The 11th International Conference on Sensor Technologies and Applications (SENSORCOMM 2017), Rome, Italy, 2017.9.

128) *Pritish Patil, Jiayun Wang, Yuya Aratani, Kyoji Kawagoe: Prototyping a Recommendation System for Ukiyo-e using Hybrid Recommendation Algorithm. 12th International Conference on Digital Information Management(ICDIM 2017)、九州大学、福岡県福岡市、2017年9月

129) Ruck Thawonmas:「Angry Birds におけるドミノステージの難易度調整」、平成29年度情報処理学会関西支部大会、大阪大学中之島センター、2017年9月

130) *Ruck Thawonmas:「CNN ベースのカラー化手法の検証とその改善法の提案」、平成29年度情報処理学会関西支部大会、大阪大学中之島センター、2017年9月

131) Ruck Thawonmas:「代替評価モデルを用いる非同期多目的進化計算法における混雑度距離により有望解選択」、第13回進化計算学会研究会、立命館大学びわこ・くさつキャンパス、2017年9月

132) Ruck Thawonmas:「木構造類似度を用いる多峰性遺伝的プログラミングにおける交叉法の検証」、第13回進化計算学会研究会、立命館大学びわこ・くさつキャンパス、2017年9月

133) *Jiayun Wang, Kyoji Kawagoe: Ukiyo-e Recommendation based on Deep Learning for Learning Japanese Art and Culture. 6th International Conference on Educational and Information Technology (ICEIT 2017), St Anne's College in Oxford University, Oxford, UK, 2017.3.

134) 池田翔武、奥健太、川越恭二:「音響特徴空間における滑らかな楽曲遷移の分析」、第9回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム(DEIM2017)、高山グリーンホテル、岐阜県高山市、2017年3月

135) 白開元、奥健太、川越恭二:「行動経過時間を考慮した音楽推薦の研究」、第9回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム(DEIM2017)、高山グリーンホテル、岐阜県高山市、2017年3月

136) *Yuting Song, Taisuke Kimura, Biligsaikhan Batjargal, Akira Maeda: Cross-Language Record Linkage by Exploiting Semantic Matching of Textual Metadata. 第9回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム(DEIM2017)、場所、岐阜県高山市、2017.3.

137) Ruck Thawonmas:「文字、数字、記号列による Angry Birds の面白いステージの自動生成」、情報処理学会第79回全国大会、名古屋大学東山キャンパス、2017年3月

138) Ruck Thawonmas:「プレイヤー適応型健康促進の Motion Gaming AI」、情報処理学会第79回全国大会、名古屋大学東山キャンパス、2017年3月

139) Ruck Thawonmas:「アメーバからヒントを得た数理モデルの用いた格闘ゲーム AI の提案」、情報処理学会第79回全国大会、名古屋大学東山キャンパス、2017年3月

140) Ruck Thawonmas:「畳み込みニューラルネットワークによる特定部分へのスタイル転移」、情報処理学会第79回全国大会、名古屋大学東山キャンパス、2017年3月

141) Ruck Thawonmas:「格闘ゲームにおける多様性のあるゲームプレイの AI による自動生成」、第44回知能システムシンポジウム、東海大学高輪キャンパス、2017年3月

142) Shobu Ikeda, Kenta Oku, Kyoji Kawagoe: Analysis of Music Transition Preferred by User in Acoustic Feature Space. 9th International Conference on Machine Learning and Computing (ICMLC 2017), Singapore, 2017.2.

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 261013 |
| プロジェクト番号 | S1511026 |

- 143) Naoki Kito, Kenta Oku, Kyoji Kawagoe: Serendipitous Music-recommendation Method in a User Profile using Known Spaces and Preference Spaces. 6th International Conference on Information and Electronics Engineering (ICIEE 2017), Nanyang Executive Centre, Singapore, 2017.2.
- 144) Yuka Wakita, Kenta Oku, Kyoji Kawagoe: Fashion-brand Recommendation with Combination of Clustering and Deep-Learning. 6th International Conference on Information and Electronics Engineering (ICIEE 2017), Nanyang Executive Centre, Singapore, 2017.2.
- 145) *Thi Ngoc Le, Hiromitsu Shimakawa: Extracting Foreigner Interest for Japanese Culture from Interactive Digital Contents. 6th International Conference on Information and Electronics Engineering (ICIEE 2017), Nanyang Executive Centre, Singapore, 2017.2.
- 146) Masayoshi Asano, Yusuke Kajiwara, Hiromitsu Shimakawa: Estimating Working Stressor Based on Pulse Wave. Proc. of International Conference on Machine Learning and Computing (ICMLC), Singapore, 2017.2.
- 147) Yoshihiro Uemura, Yusuke Kajiwara, Hiromitsu Shimakawa: Estimating Distracted Pedestrian from Deviated Walking Considering Consumption of Working Memory. Proc. of The 2016 International Conference on Computational Science and Computational Intelligence, Monte Carlo Resort, Las Vegas, Nevada, USA, 2016.12.
- 148) 木村 泰典, Yuting Song, Biligsaikhan Batjargal, 木村 文則, 前田 亮:「異言語の浮世絵データベースにおける描写的作品名に対応した同一作品の同定手法の提案」、人文科学とコンピュータシンポジウム、東京都立川市、2016年12月
- 149) Ruck Thawonmas:「遺伝的アルゴリズムによる Angry Birds のステージ自動生成におけるプレイヤースキルに適した難易度の調整」、計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2016 (SSI2016)、Monte Carlo Resort, Las Vegas, Nevada, USA, 2016年12月
- 150) *Akira Maeda: Towards Integrated Multilingual Access to Diverse Digital Libraries and Archives. Fifth International Conference on Digital Libraries (ICDL2016), New Delhi, India, 2016.12.
- 151) 池田翔武, 奥健太, 川越恭二:「楽曲遷移の滑らかさを考慮したプレイリスト推薦」、第9回 Webとデータベースに関するフォーラム、慶応義塾大学日吉キャンパス、2016年9月
- 152) Keisuke katsura, Momoko Kato, Hiromitsu Simakawa: Recommendation of Fashion Coordinates Considering TPO and Impression. Proc. of International Conference on Advances in Software, Control And Mechanical Engineering (ICSCME 2016), Kyoto, Japan, 2016.9.
- 153) Ruck Thawonmas:「オープンループサーチを用いた対戦格闘ゲーム AI の提案」、平成 28 年度情報処理学会関西支部大会、大阪大学中之島キャンパス、2016年9月
- 154) Shobu Ikeda, Kenta Oku, Kyoji Kawagoe: Music Playlist Recommendation Using Acoustic-Feature Transitions. Ninth International C* Conference on Computer Science & Software Engineering (C3S2E2016), Insitituto Superior de Engenharia do Porto, Porto, Portugal, 2016.7.
- 155) Ruck Thawonmas:「対戦型ゲーム AI 大会におけるゲームバランスの分析と調整」、ゲーム学会第 14 回全国大会、香川大学林町キャンパス、2016年3月
- 156) Ruck Thawonmas:「建築物の生成ルールと中華風や和風の複数のモデルを用いた Angry Birds のレベル自動生成」、情報処理学会第 78 回全国大会、慶應義塾大学矢上キャンパス、2016年3月
- 157) Ruck Thawonmas:「Comparative analysis of Reinforcement Learning and Evolutionary Strategy in General Video Game Playing」、情報処理学会第 78 回全国大会、慶應義塾大学矢上キャンパス、2016年3月
- 158) *前田 亮:「日本文化資源データベースへの多言語情報アクセス技術」、平成 27 年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「日本文化資源のグローバルアクション」成果報告会、立命館大学アート・リサーチセンター、2016年3月
- 159) Yuting Song, Taisuke Kimura, Biligsaikhan Batjargal, Akira Maeda:「An Approach to Build a Proper Noun Dictionary for Record Linkage across Humanities Databases in Different Languages」、第 8 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (DEIM2016)、ヒルトン福岡シーホーク、2016年2月
- 160) 前田 亮, 浦田 智昭:「音楽記事中のアーティスト名を対象としたエンティティリンキング」、第 8 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (DEIM2016)、ヒルトン福岡シーホーク、2016年2月
- 161) Kyoji Kawagoe: Toward a Guide Agent who Actively Intervene Inter-user Conversation - Timing Definition and Trial of Automatic Detection using Low-level Nonverbal Features. 8th International Conference on Agents and Artificial Intelligence (ICAART 2016), Rome, Italy, 2016.2.
- 162) Kyoji Kawagoe: A Crowd-sourced Method for Real-time Detection and Localization of Unexpected Events. The Eighth International Conferences on Advances in Multimedia (MMEDIA2016), Mercure Lisboa, Lisbon, Portugal, 2016.2.
- 163) Ruck Thawonmas:「対戦型ゲーム AI 大会におけるゲームバランスの分析」、平成 27 年度電気学会九州支

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 261013 |
| プロジェクト番号 | S1511026 |

部沖繩支所講演会、琉球大学工学部、2015年12月

- 164) *Hiromitsu Shimakawa: Recommendation System for Tourist Attraction based on Pre-image and Review. Proc. ISER 18th International Conference on Recent Trends in Engineering and Technology (ICRTET-2015), Chandwad, Nashil, India, 2015.12.
- 165) Hiromitsu Shimakawa: Navigation System for Visually Handicapped Person on Street by ANT Colony Optimization. Proc. ISER 18th International Conference on Recent Trends in Engineering and Technology (ICRTET-2015), Chandwad, Nashil, India, 2015.12.
- 166) Hiromitsu Shimakawa: Cultivation Support with Extraction of Farming Work Rules. Proc. ISER 18th International Conference on Recent Trends in Engineering and Technology (ICRTET-2015), Chandwad, Nashil, India, 2015.12.
- 167) Hiromitsu Shimakawa: Investigating Touch Gestures and Pupil Movements on Mobile Terminal to Find Attractive Areas in Web Browsing. Proc. ISER 18th International Conference on Recent Trends in Engineering and Technology (ICRTET-2015), Chandwad, Nashil, India, 2015.12.
- 168) 前田 亮:「資料からの人文系研究者への注釈候補の提示手法の構築」、人文科学とコンピュータシンポジウム、大阪市立大学杉本キャンパス、大阪府大阪市、2015年12月
- 169) 前田 亮:「多言語の浮世絵データベース間における同一作品の同定手法の提案」、人文科学とコンピュータシンポジウム、大阪市立大学杉本キャンパス、大阪府大阪市、2015年12月
- 170) Kyoji Kawagoe: Music feeling classification based on lyrics using weighting of non-emotional words. 13th International Conference on Advances in Mobile Computing & Multimedia, Brussels, Belgium, 2015.12.
- 171) Kyoji Kawagoe: A Coarse-to-Fine Method for Subsequence Matching of Human Behavior Using Multi-dimensional Time-Series Approximation. 17th International Conference on Information Integration and Web-based Applications & Services (iiWAS2015), The Raddison Blu Royall Hotel Brussels, Brussels, Belgium, 2015.12.
- 172) Kyoji Kawagoe: Can a Virtual Listener Replace a Human Listener in Active Listening Conversation?. 1st Joint Workshop on Emotion Representations and Modeling for Companion Systems (ERM4CT 2015), Seattle, USA, 2015.11.
- 173) Kyoji Kawagoe: Multimedia Information Retrieval: from viewpoints of temporal information and new application development. 6th International Conference on Networking and Information Technology (ICNIT 2015), Tokyo, Japan, 2015.11.
- 174) Kyoji Kawagoe: Drive scenery estimation using image features extracted from roadmap and satellite images. 16th International Symposium on Advanced Intelligent Systems (ISIS2015), Namak Campus of Mokpo National University, 2015.11.
- 175) Ruck Thawonmas:「Kinect を用いた対戦格闘ゲームにおけるユーザの運動量を向上させる AI の探求」、平成 27 年度情報処理学会関西支部大会、2015 年 9 月
- 176) Ruck Thawonmas, 海段 美紗希, 原田 智広:「遺伝子的アルゴリズムのパラメータ調整によるプレイヤーのレベルに適した Angry Birds のステージ自動生成」、平成 27 年度情報処理学会関西支部大会、大阪大学中之島センター、2015 年 9 月
- 177) Ruck Thawonmas, 森 和貴, 山竹 浩史, レ ハイ バン, 原田 智広:「仮想空間における滞在時間を用いたコンテンツベース推薦手法の提案」、平成 27 年度情報処理学会関西支部大会、大阪大学中之島センター、2015 年 9 月
- 178) Ruck Thawonmas:「対戦型格闘ゲームにおける k-substring tree 構造を用いた相手の行動予測と予測精度の向上」、平成 27 年度情報処理学会関西支部大会、大阪大学中之島センター、2015 年 9 月
- 179) *Ruck Thawonmas:「Biasing Monte-Carlo Rollouts with Potential Field in General Video Game Playing」、平成 27 年度情報処理学会関西支部大会、大阪大学中之島センター、2015 年 9 月
- 180) 島川博光:「電子タグを用いた単独歩行視覚障害者の誘導」、第 14 回情報科学技術フォーラム、愛媛県松山市、2015 年 9 月
- 181) 島川博光:「日常生活を想定した輝度分布センサによる家庭内行動の視覚化」、第 14 回情報科学技術フォーラム、愛媛県松山市、2015 年 9 月
- 182) 島川博光:「おもてなしのための足取りベクトルによる顧客の状態推定」、第 14 回情報科学技術フォーラム、愛媛県松山市、2015 年 9 月
- 183) Kyoji Kawagoe: Implementing a human-behavior-process archive and search database system using simulated surgery processes. International Conference on Innovation in Medicine and Healthcare, Suzaku Campus of Ritsumeikan University, 2015.9.
- 184) Kyoji Kawagoe: Tweet-mapping method for tourist spots based on now-tweets and spot-photos.

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 261013 |
| プロジェクト番号 | S1511026 |

- Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems, Marina Bay Sands Expo & Convention Centre, Singapore, 2015.9.
- 185) Kyoji Kawagoe: Similarities of Frequent Following Patterns and Social Entities. 19th International Conference on Knowledge Based and Intelligent Information and Engineering Systems (KES2015), Marina Bay Sands Expo & Convention Centre, Singapore, 2015.9.
- 186) 川越恭二:「高齢者の生活状況に基づいたエージェントの発話要約手法の検討」、ヒューマンインタフェースシンポジウム 2015、公立はこだて未来大学、北海道函館市、2015年9月
- 187) Kyoji Kawagoe: Applying a Multi-dimensional Time-Series Similarity Method to Typhoon-track Prediction. 11th IEEE International Conference on eScience (eScience2015), Munich, Germany, 2015.9.
- 188) Hirimitsu Shimakawa: Identification of Personal Actions with Brightness Distribution Sensors to Harmonize Domestic Affairs. Proc. Of the Sixth International conference on Sensor Device Technologies and Applications, Novotel Venezia Mestre Castellana, Venice, Italy, 2015.8.
- 189) Hirimitsu Shimakawa: Key Features to Classify Shopping Customer Status from Gait Pattern Acquired with RFID Technology. Proc. Of the Sixth International conference on Sensor Device Technologies and Applications, Novotel Venezia Mestre Castellana, Venice, Italy, 2015.8.
- 190) Hirimitsu Shimakawa: Figuring Out Conscientious Degree from Brightness Distribution in IADL. Proc. Of the Sixth International conference on Sensor Device Technologies and Applications, Novotel Venezia Mestre Castellana, Venice, Italy, 2015.8.
- 191) Hirimitsu Shimakawa: Navigating for Visually Handicapped to Walk Alone with RFID Technologies. Proc. Of the Sixth International conference on Sensor Device Technologies and Applications, Novotel Venezia Mestre Castellana, Venice, Italy, 2015.8.
- 192) Hirimitsu Shimakawa: Estimating Consumer Inclination for Agricultural Products from Web Browsing History. Proc. of the Seventh International Conference on Advances in Future Internet, Venice, Italy, 2015.8.
- 193) Kyoji Kawagoe: Exploring the Potentiality to Estimate Speaker's Attitude by Low-level Features in Active Listening Conversation. Virtual Health Agents Workshop of the 15th International Conference on Intelligent Virtual Agents (IVA 2015), Delft, the Netherlands, 2015.8.
- 194) Hirimitsu Shimakawa: Superior Factors to Predict Learning Status. Proc. of 4th International Conference on Learning Technologies and Learning Environments (LTLE2015), Yokohama, Japan, 2015.7.
- 195) Kyoji Kawagoe: Correlation analysis among the metadata-based similarity, acoustic-based distance, and serendipity of music (Poster). 19th International Database Engineering & Applications Symposium (IDEAS2015), Yokohama, Japan, 2015.7.
- 196) Kyoji Kawagoe: Big social network mining for following patterns. 8th International C* Conference on Computer Science & Software Engineering (C3S2E2015), Yokohama, Japan, 2015.7.
- 197) Kyoji Kawagoe: A Fashion-Brand Recommender System Using Brand Association Rules and Features. 4th International Congress on Advanced Applied Informatics, Okayama Convention Center, 2015. 7.
- 198) Kyoji Kawagoe: Searching Human Actions based on a Multidimensional Time Series Similarity Calculation Method. 14th IEEE/ACIS International Conference on Computer and Information Science 2015, Las Vegas, USA, 2015.6.
- 199) Kyoji Kawagoe: A Human Behavior Processes Database Prototype System for Surgery Support. 14th IEEE/ACIS International Conference on Computer and Information Science 2015, Las Vegas, USA, 2015.6.
- 200) Kyoji Kawagoe: SQUED: A Novel Crowd-sourced System for Detection and Localization of Unexpected Events from Smartphone-Sensor Data. 14th IEEE/ACIS International Conference on Computer and Information Science 2015, Las Vegas, USA, 2015.6.
- 201) 川越恭二:「道路地図および航空写真の特徴量を用いたドライブ風景の推定」、ARG 第6回 Web インテリジェンスとインタラクション研究会、大阪大学豊中キャンパス、2015年6月
- 202) 川越恭二:「仮想学級を用いた教員志望者の練習環境の検討」、第29回人工知能学会全国大会、公立はこだて未来大学、北海道函館市、2015年5月

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 261013 |
| プロジェクト番号 | S1511026 |

＜研究成果の公開状況＞(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

ホームページで公開している場合には、URL を記載してください。

＜既に実施しているもの＞

インターネットでの公開状況

- 1) 本プロジェクト HP <http://www.arc.ritsumei.ac.jp/lib/srfpup/index.html>
- 2) *ARC 浮世絵ポータルデータベース http://www.dh-jac.net/db/nishikie/search_portal.php
- 3) *ARC 古典籍ポータルデータベース http://www.dh-jac.net/db1/books/search_portal.php
- 4) *バーチャル・インスティテュート http://www.arc.ritsumei.ac.jp/v_institute.html

シンポジウム

- 1) *アジア圏文化資源研究開拓プロジェクト国際ワークショップ-アジア出土遺物デジタルアーカイブの可能性-, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2016年2月14日
- 2) 平成27年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「日本文化資源のグローバルアクション」成果報告会, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2016年3月14日
- 3) 国際ワークショップ「学術資料としての『型紙』—資料の共有化と活用に向けて」, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2016年10月29日-30日
- 4) *アジア圏文化資源研究開拓プロジェクト国際ワークショップ-東アジア演劇研究におけるデジタル・ヒューマニティーズの可能性-立命館大学アート・リサーチセンター, 2017年2月20日-21日
- 5) 平成28年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「日本文化資源のグローバルアクション」成果報告会, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2017年3月23日
- 6) 国際シンポジウム Popularizing Fabrics and Clothing: Kyoto Yuzen Industry in broader context 1600-1970 (布と衣のポピュライゼーション: 京都友禅を国際的文脈の中に位置づける), 立命館大学アート・リサーチセンター, 2017年6月3日
- 7) IIIF Japan 京都ラウンドテーブル, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2017年10月19日
- 8) *国際シンポジウム“Textile Pattern Designs in the Global Entanglement: Katagami, Batik, Sarasa and “African Prints” on the Move 1800-2000 (「染色デザインの世界の連環: 型紙、バティック、更紗、アフリカン・プリント」を中心に), 立命館大学アート・リサーチセンター, 2017年10月21日-22日
- 9) *アジア圏文化資源研究開拓プロジェクト国際ワークショップ-東アジア木版文化研究とデジタルヒューマニティーズの可能性-立命館大学アート・リサーチセンター, 2018年2月28日-3月1日
- 10) 平成29年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「日本文化資源のグローバルアクション」成果報告会, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2018年3月23日
- 11) 文化庁・立命館大学 共同研究キックオフ・シンポジウム「新たな文化芸術創造活動の創出」, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2018年3月24日

＜これから実施する予定のもの＞

- 1) アジア圏文化資源研究開拓プロジェクト国際ワークショップ-東アジア文化研究の学術フロンティア-立命館大学アート・リサーチセンター, 2019年2月(未定)
- 2) 平成30年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「日本文化資源のグローバルアクション」成果報告会, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2019年3月(未定)

14 その他の研究成果等

「12 研究発表の状況」で記述した論文、学会発表等以外の研究成果及び企業との連携実績があれば具体的に記入してください。また、上記11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付してください。

研究成果

- ・大英博物館所蔵日本資料の本学アート・リサーチセンターからの一般公開に関する契約を締結し、専用閲覧データベースをリリースし、所蔵するすべての古典籍と浮世絵が一般公開された。(2017年9月)
- ・ケンブリッジ大学図書館と包括的研究交流協定の締結へ、来年度以降本学アート・リサーチセンターのサイトから同館の和漢古典籍資料が日本語話者向けに一般公開予定。同デジタルコンテンツはすでに同館公式リポジトリである Cambridge Digital Library から英語話者に向けて一般公開された。(2017年5月)

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 261013 |
| プロジェクト番号 | S1511026 |

企業との連携実績

- 1) *株式会社フージャースコーポレーション(長江家住宅):奨学寄附金(2015-2016年度/250千円)
- 2) 株式会社公文教育研究会:受託研究「子ども文化研究史料のデジタル化とそれらを活用した研究」(2015-2016年度/2,400千円)
- 3) Google Ireland Limited.:受託研究「Google Cultural Institute を利用した伝統工芸を中心とする日本文化の発信」(2015年度/4,169千円)
- 4) 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館:共同研究「新古典籍総合目録データベース」のマルチリンガル化対応のための基礎研究」(2015-2017年度/4,500千円)※2018年度も継続。
- 5) 日本電信電話株式会社:共同研究「文化財の記録、分析およびデジタルコンテンツ展示における高精細分光画像の活用法に関する検討の共同研究」(2015-2017年度/1,800千円)※2018年度も継続。
- 6) 株式会社キョーテック(型紙):奨学寄附金(2016-2017年度/900千円)※2018年度も継続。
- 7) *公益財団法人船鉾保存会:奨学寄附金(2017年度/1,000千円)
- 8) 文化庁地域創生本部:共同研究「デジタル・アーカイブを応用した新たな文化芸術創造活動の展開手法に関する研究」(2017年度/800千円)※2018年度 2,000千円、2019年度 1,200千円助成予定。

15 「選定時」に付された留意事項とそれへの対応**<「選定時」に付された留意事項>**

該当なし。

<「選定時」に付された留意事項への対応>

該当なし。

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 261013 |
| プロジェクト番号 | S1511026 |

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

| 年度・区分 | 支出額 | 内 訳 | | | | | | 備考 |
|--------|--------|--------|--------|----------|-------|-----|--------|----|
| | | 法人負担 | 私学助成 | 共同研究機関負担 | 受託研究等 | 寄付金 | その他() | |
| 平成27年度 | 施設 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 装置 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 設備 | 3,000 | 1,000 | 2,000 | 0 | 0 | 0 | |
| | 研究費 | 22,180 | 11,180 | 11,000 | 0 | 0 | 0 | |
| 平成28年度 | 施設 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 装置 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 設備 | 3,000 | 1,001 | 1,999 | 0 | 0 | 0 | |
| | 研究費 | 24,995 | 13,995 | 11,000 | 0 | 0 | 0 | |
| 平成29年度 | 施設 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 装置 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 設備 | 3,000 | 1,000 | 2,000 | 0 | 0 | 0 | |
| | 研究費 | 22,015 | 11,015 | 11,000 | 0 | 0 | 0 | |
| 総額 | 施設 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 装置 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 設備 | 9,000 | 3,001 | 5,999 | 0 | 0 | 0 | |
| | 研究費 | 69,190 | 36,190 | 33,000 | 0 | 0 | 0 | |
| 総計 | 78,190 | 39,191 | 38,999 | 0 | 0 | 0 | 0 | |

17 施設・装置・設備の整備状況 (私学助成を受けたものはすべて記載してください。)

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)

(千円)

| 施設の名 称 | 整備年度 | 研究施設面積 | 研究室等数 | 使用者数 | 事業経費 | 補助金額 | 補助主体 |
|--------|------|--------|-------|------|------|------|------|
| | | | | | | | |

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

_____ m²

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 261013 |
| プロジェクト番号 | S1511026 |

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)(千円)

| 装置・設備の名称 | 整備年度 | 型番 | 台数 | 稼働時間数 | 事業経費 | 補助金額 | 補助主体 |
|----------------|------|----------------|----|-------|-------|-------|------|
| (研究装置) | | | | h | | | |
| | | | | h | | | |
| | | | | h | | | |
| | | | | h | | | |
| (研究設備) | | | | | | | |
| 美術・工芸関係図書資料 | H27 | 舞台意匠控帳 | 一式 | h | 1,800 | 1,200 | 私学助成 |
| 美術・工芸関係図書資料 | H27 | 絵入百人一首 | 一式 | h | 1,200 | 800 | 私学助成 |
| 美術・工芸・風俗関係図書資料 | H28 | 戦前・浮世絵及び風俗関連書籍 | 一式 | h | 2,000 | 1,333 | 私学助成 |
| 美術・工芸・風俗関係図書資料 | H28 | 古裂貼交帖 | 一式 | h | 1,000 | 666 | 私学助成 |
| 風俗・芸術関係資料 | H29 | | 一式 | h | 3,000 | 2,000 | 私学助成 |
| (情報処理関係設備) | | | | h | | | |
| | | | | h | | | |
| | | | | h | | | |
| | | | | h | | | |

18 研究費の支出状況 (千円)

| 年度 | 平成 27 年度 | 積算内訳 | | テーマ 1 |
|------------------------------|----------|-----------|-------|---------------------------------------|
| 小科目 | 支出額 | 主な用途 | 金額 | 主な内容 |
| 教育研究経費支出 | | | | |
| 消耗品費 | 1,961 | 研究関連資料 | 1,961 | 研究関連図書・パソコン・ハードディスク費用等 |
| 光熱水費 | 0 | | 0 | |
| 通信運搬費 | 25 | 郵送費 | 25 | 国内郵送費 |
| 印刷製本費 | 29 | 文献複写・資料印刷 | 29 | 文献複写料・資料印刷代 |
| 旅費交通費 | 2,783 | 研究旅費 | 2,783 | 国内・国外研究旅費 |
| 報酬・委託料 | 740 | 研究会謝礼 | 740 | 研究会講師謝礼等 |
| (その他) | 408 | 学術施設入場料 | 408 | 学術施設(美術館等)入場料・学外研究施設使用料 |
| 計 | 5,946 | | 5,946 | |
| アルバイト関係支出 | | | | |
| 人件費支出 (兼務職員) | 1,998 | 研究補助 | 1,998 | 時給 840-1200円, 年間時間数 2067時間 実人数 16人 |
| 教育研究経費支出 | | | | |
| 計 | 1,998 | | 1,998 | |
| 設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの) | | | | |
| 教育研究用機器備品 | | | | |
| 図書 | | | | |
| 計 | 0 | | | |
| 研究スタッフ関係支出 | | | | |
| リサーチ・アシスタント | | | | |
| ポスト・ドクター | | | | |
| 研究支援推進経費 | | | | |
| 計 | 0 | | | |

(様式1)

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 261013 |
| プロジェクト番号 | S1511026 |

| 年度 | | 平成 27 年度 | | テーマ 2 | |
|-------------------------------------|-------|----------|-------|---------------------------------------|--|
| 小科目 | 支出額 | 積算内訳 | | | |
| | | 主な使途 | 金額 | 主な内容 | |
| 教育研究経費支出 | | | | | |
| 消耗品費 | 4,243 | 研究関連資料 | 4,243 | 研究関連図書・パソコン・ハードディスク費用等 | |
| 光熱水費 | 0 | | 0 | | |
| 通信運搬費 | 18 | 郵送費・通信費 | 18 | 国内郵送費・インターネット通信費 | |
| 印刷製本費 | 70 | 資料印刷 | 70 | 資料印刷代 | |
| 旅費交通費 | 350 | 研究旅費 | 350 | 国内・国外研究旅費 | |
| 報酬・委託料 | 1,374 | 研究会謝礼 | 1,374 | 研究会講師謝礼等 | |
| (その他) | 61 | 学術施設入場料 | 61 | 学術施設入場料・学外研究施設使用料 | |
| 計 | 6,116 | | 6,116 | | |
| アルバイト関係支出 | | | | | |
| 人件費支出 (兼務職員) | 1,518 | 研究補助 | 1,518 | 時給 840-1200円, 年間時間数 1646時間 実人数 14人 | |
| 教育研究経費支出 計 | 1,518 | | 1,518 | | |
| 設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの) | | | | | |
| 教育研究用機器備品 図書 | | | | | |
| 計 | 0 | | | | |
| 研究スタッフ関係支出 | | | | | |
| リサーチ・アシスタント ポスト・ドクター 研究支援推進経費 | | | | | |
| 計 | 0 | | | | |

| 年度 | | 平成 27 年度 | | テーマ 3 | |
|-------------------------------------|-------|----------|-------|-------------------------------------|--|
| 小科目 | 支出額 | 積算内訳 | | | |
| | | 主な使途 | 金額 | 主な内容 | |
| 教育研究経費支出 | | | | | |
| 消耗品費 | 3,107 | 研究関連資料 | 3,107 | パソコン・ハードディスク・研究関連図書費用等 | |
| 光熱水費 | 0 | | 0 | | |
| 通信運搬費 | 0 | | 0 | | |
| 印刷製本費 | 0 | | 0 | | |
| 旅費交通費 | 1,720 | 研究旅費 | 1,720 | 国内・国外研究旅費 | |
| 報酬・委託料 | 554 | 調査謝礼 | 554 | 調査謝礼・英文校正 | |
| (その他) | 359 | 学会参加費 | 359 | 学会参加費 | |
| 計 | 5,740 | | 5,740 | | |
| アルバイト関係支出 | | | | | |
| 人件費支出 (兼務職員) | 862 | 研究補助 | 862 | 時給 840-950円, 年間時間数 925時間 実人数 16人 | |
| 教育研究経費支出 計 | 862 | | 862 | | |
| 設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの) | | | | | |
| 教育研究用機器備品 図書 | | | | | |
| 計 | 0 | | | | |
| 研究スタッフ関係支出 | | | | | |
| リサーチ・アシスタント ポスト・ドクター 研究支援推進経費 | | | | | |
| 計 | 0 | | | | |

(様式1)

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 261013 |
| プロジェクト番号 | S1511026 |

(千円)

| 年 度 | 平成 28 年度 | 積 算 内 訳 | | テ ー マ 1 |
|--|----------|-----------------|-------|---------------------------------------|
| 小 科 目 | 支 出 額 | 主 な 使 途 | 金 額 | 主 な 内 容 |
| | | 教 育 研 究 経 費 支 出 | | |
| 消 耗 品 費 | 1,501 | 研究関連資料 | 1,501 | 研究関連図書・パソコン・ハードディスク費用等 |
| 光 熱 水 費 | 0 | | 0 | |
| 通 信 運 搬 費 | 3 | 郵送費 | 3 | 国内・国外郵送費 |
| 印 刷 製 本 費 | 9 | 資料印刷・文献複写 | 9 | 資料印刷・文献複写料 |
| 旅 費 交 通 費 | 830 | 研究旅費 | 830 | 国内・国外研究旅費 |
| 報 酬 ・ 委 託 料 | 480 | 調査謝礼・翻訳手数料 | 480 | 調査謝礼・翻訳手数料 |
| (そ の 他) | 4 | 学会参加費・学術施設入場料 | 4 | 学会参加費・学術施設(美術館等)入場料 |
| 計 | 2,827 | | 2,827 | |
| ア ル バ イ ト 関 係 支 出 | | | | |
| 人件費支出 (兼務職員) | 4,445 | 研究補助 | 4,445 | 時給 840-1500円, 年間時間数 4421時間 実人数 13人 |
| 教育研究経費支出 計 | 4,445 | | 4,445 | |
| 設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの) | | | | |
| 教育研究用機器備品 図 書 | | | | |
| 計 | 0 | | | |
| 研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出 | | | | |
| リサーチ・アシスタント ポスト・ドクター 研究支援推進経費 計 | 0 | | | |

(千円)

| 年 度 | 平成 28 年度 | 積 算 内 訳 | | テ ー マ 2 |
|--|----------|-----------------|-------|---------------------------------------|
| 小 科 目 | 支 出 額 | 主 な 使 途 | 金 額 | 主 な 内 容 |
| | | 教 育 研 究 経 費 支 出 | | |
| 消 耗 品 費 | 3,515 | 研究関連資料 | 3,515 | 研究関連図書・パソコン・ハードディスク費用等 |
| 光 熱 水 費 | 0 | | 0 | |
| 通 信 運 搬 費 | 128 | 郵送費・通信費 | 128 | 国内郵送費・インターネット通信費 |
| 印 刷 製 本 費 | 20 | 資料印刷・文献複写 | 20 | 資料印刷・文献複写料 |
| 旅 費 交 通 費 | 390 | 研究旅費 | 390 | 国内・国外研究旅費 |
| 報 酬 ・ 委 託 料 | 534 | 研究会講師謝礼・研究補助 | 534 | 研究会講師謝礼・研究補助(テープ起こし等) |
| (そ の 他) | 15 | 学外研究施設使用料 | 15 | 学外研究施設使用料 |
| 計 | 4,602 | | 4,602 | |
| ア ル バ イ ト 関 係 支 出 | | | | |
| 人件費支出 (兼務職員) | 2,852 | 研究補助 | 2,852 | 時給 840-1200円, 年間時間数 2619時間 実人数 57人 |
| 教育研究経費支出 計 | 2,852 | | 2,852 | |
| 設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの) | | | | |
| 教育研究用機器備品 図 書 | | | | |
| 計 | 0 | | | |
| 研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出 | | | | |
| リサーチ・アシスタント ポスト・ドクター 研究支援推進経費 計 | 0 | | | |

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 261013 |
| プロジェクト番号 | S1511026 |

(千円)

| 年 度 | 平成 28 年度 | | | テーマ 3 |
|------------------------------------|----------|---------|-------|------------------------------------|
| 小 科 目 | 支 出 額 | 積 算 内 訳 | | |
| | | 主 な 使 途 | 金 額 | 主 な 内 容 |
| 教 育 研 究 経 費 支 出 | | | | |
| 消 耗 品 費 | 617 | 研究関連備品 | 617 | パソコン・ハードディスク費用等 |
| 光 熱 水 費 | 0 | | 0 | |
| 通 信 運 搬 費 | 0 | | 0 | |
| 印 刷 製 本 費 | 0 | | 0 | |
| 旅 費 交 通 費 | 4,667 | 研究旅費 | 4,667 | 国内・国外研究旅費 |
| 報 酬 ・ 委 託 料 | 17 | 英文校正 | 17 | 英文校正 |
| (そ の 他) | 1,226 | 学会参加費 | 1,226 | 学会参加費 |
| 計 | 6,527 | | 6,527 | |
| ア ル バ イ ト 関 係 支 出 | | | | |
| 人 件 費 支 出 (兼 務 職 員) | 742 | 研究補助 | 742 | 時給 840-950円, 年間時間数 784時間 実人数 8人 |
| 教 育 研 究 経 費 支 出 計 | 742 | | 742 | |
| 設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの) | | | | |
| 教 育 研 究 用 機 器 備 品 | | | | |
| 図 書 | | | | |
| 計 | 0 | | | |
| 研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出 | | | | |
| リサーチ・アシスタント | | | | |
| ポスト・ドクター | | | | |
| 研究支援推進経費 | | | | |
| 計 | 0 | | | |

(千円)

| 年 度 | 平成 29 年度 | | | テーマ 1 |
|------------------------------------|----------|---------|-------|-------------------------|
| 小 科 目 | 支 出 額 | 積 算 内 訳 | | |
| | | 主 な 使 途 | 金 額 | 主 な 内 容 |
| 教 育 研 究 経 費 支 出 | | | | |
| 消 耗 品 費 | 5,102 | 研究関連資料 | 5,102 | 研究関連図書代・パソコン・ハードディスク費用等 |
| 光 熱 水 費 | 0 | | 0 | |
| 通 信 運 搬 費 | 1 | 郵送 | 1 | 郵送料 |
| 印 刷 製 本 費 | 5 | 資料印刷 | 5 | 資料印刷代等 |
| 旅 費 交 通 費 | 1,667 | 研究旅費 | 1,667 | 国内・国外研究旅費 |
| 報 酬 ・ 委 託 料 | 389 | 製作委託 | 389 | 製作委託料 |
| (そ の 他) | 22 | 学会参加費 | 22 | 学会参加費 |
| 計 | 7,186 | | 7,186 | |
| ア ル バ イ ト 関 係 支 出 | | | | |
| 人 件 費 支 出 (兼 務 職 員) | | | | |
| 教 育 研 究 経 費 支 出 計 | 0 | | | |
| 設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの) | | | | |
| 教 育 研 究 用 機 器 備 品 | | | | |
| 図 書 | | | | |
| 計 | 0 | | | |
| 研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出 | | | | |
| リサーチ・アシスタント | | | | |
| ポスト・ドクター | | | | |
| 研究支援推進経費 | | | | |
| 計 | 0 | | | |

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 261013 |
| プロジェクト番号 | S1511026 |

(千円)

| 年 度 | 平成 29 年度 | | | テーマ 2 |
|--|----------|-----------|-------|---------------------------------------|
| 小 科 目 | 支 出 額 | 積 算 内 訳 | | |
| | | 主 な 使 途 | 金 額 | 主 な 内 容 |
| 教 育 研 究 経 費 支 出 | | | | |
| 消耗品費 | 1,723 | 研究関連資料 | 1,723 | パソコン・ハードディスク・研究関連図書等 |
| 光熱水費 | 0 | | 0 | |
| 通信運搬費 | 44 | 運搬料 | 44 | 運搬料 |
| 印刷製本費 | 0 | | 0 | |
| 旅費交通費 | 229 | 研究旅費 | 229 | 国内研究旅費 |
| 報酬・委託料 | 82 | 製作委託・調査謝礼 | 82 | 製作委託料・調査謝礼 |
| () | 0 | | 0 | |
| 計 | 2,078 | | 2,078 | |
| ア ル バ イ ト 関 係 支 出 | | | | |
| 人件費支出 (兼務職員) | 836 | 研究補助 | 836 | 時給 840-1,200円, 年間時間数 891時間 実人数 20人 |
| 教育研究経費支出 計 | 836 | | 836 | |
| 設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの) | | | | |
| 教育研究用機器備品 図 書 | | | | |
| 計 | 0 | | | |
| 研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出 | | | | |
| リサーチ・アシスタント ポスト・ドクター 研究支援推進経費 計 | | | | |
| | 0 | | | |

(千円)

| 年 度 | 平成 29 年度 | | | テーマ 3 |
|--|----------|---------|-------|--------------------------------------|
| 小 科 目 | 支 出 額 | 積 算 内 訳 | | |
| | | 主 な 使 途 | 金 額 | 主 な 内 容 |
| 教 育 研 究 経 費 支 出 | | | | |
| 消耗品費 | 3,414 | 研究関連資料 | 3,414 | 研究関連図書・パソコン・ハードディスク費用等 |
| 光熱水費 | 0 | | 0 | |
| 通信運搬費 | 0 | | 0 | |
| 印刷製本費 | 0 | | 0 | |
| 旅費交通費 | 5,691 | 研究旅費 | 5,691 | 国内・国外研究旅費 |
| 報酬・委託料 | 69 | 調査謝礼 | 69 | 調査謝礼 |
| (その他) | 586 | 学会参加費 | 586 | 学会参加費 |
| 計 | 9,760 | | 9,760 | |
| ア ル バ イ ト 関 係 支 出 | | | | |
| 人件費支出 (兼務職員) | 2,155 | 研究補助 | 2,155 | 時給 840-950円, 年間時間数 2038時間 実人数 10人 |
| 教育研究経費支出 計 | 2,155 | | 2,155 | |
| 設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの) | | | | |
| 教育研究用機器備品 図 書 | | | | |
| 計 | 0 | | | |
| 研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出 | | | | |
| リサーチ・アシスタント ポスト・ドクター 研究支援推進経費 計 | | | | |
| | 0 | | | |